

Ninja 250

モーターサイクル

取 扱 説 明 書

⚠ご使用になる前に必ずこの取扱説明書をお読みください。

Kawasaki
Let the Good Times Roll

お車には定期的に点検・交換が必要な部品（エンジンオイル、タイヤ、ブレーキパッド、ホース類等）があり、その点検は法により義務付けられております。安心して快適にお乗りいただけるよう点検整備を必ず実施してください。

ご愛用の皆様に

カワサキ車をお買いあげいただきありがとうございます。

この取扱説明書には、お買いあげいただいたお車の正しい取り扱い方、安全な運転の仕方、簡単な整備の方法等について説明してあります。

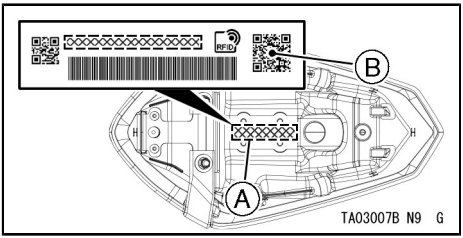
より快適に、より安全にお乗りいただくために、この取扱説明書を是非お読みください。また、メンテナンスノート、セーフティハンドブックも是非お読みください。

なお本書の内容は、仕様変更などにより実際と異なる場合がありますので、あらかじめご了承ください。最新の情報は、カワサキウェブサイトのオンライン取扱説明書から閲覧可能です。

[取扱説明書]
https://www.kawasaki-onlinetechinfo.net/dispeBook?file=99817-0071&manual_kind=OM&lang_code=JA&mark=EX250YTF&model_year=2026

998170071JA

同乗者用シート裏側にある車両情報ラベル右側のQRコードを読み取ることで、お車の情報をご確認いただけます。



A. 車両情報ラベル
B. QRコード

アドバイス

○ QRコードは、株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

お車の受け取りの際には、お買いあげいただきましたカワサキ正規取扱店より「取扱説明書」「メンテナンスノート」「セーフティハンドブック」 を受け取り、下記の説明を必ず受けてください。

- お車の正しい取り扱い方について
- 保証の内容と保証期間について
- 保証書の発行方法について
- 初回点検について
- 日常点検、定期点検整備について
- 車両の確認とお受け取りの署名について

- 車を譲られる場合、次の方にこの取扱説明書およびメンテナンスノートをお渡しください。
- 仕様の変更等により図や内容が一部実車と異なる場合がありますので、ご了承ください。
- この車は、運転者を含めて2名まで乗車できます。
- この車は排出ガス規制適合車です。

本書では正しい取り扱い方法および点検・整備に関する重要な事項を、次のシンボルマークで示しています。

⚠ 危険

取り扱いを誤った場合、死亡または重大な傷害に至る可能性が大きいと想定される場合を示しています。

⚠ 警告

取り扱いを誤った場合、死亡または重大な傷害に至る可能性が想定される場合を示しています。

注意

取り扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示しています。

アドバイス

○ 製品の操作や整備に関連して知っておいていただきたいこと、知っておくと便利なことを説明しています。

カワサキモータース株式会社
株式会社カワサキモータースジャパン

© 2025 カワサキモータース株式会社

2025. 4. 14 (1)

目次

安全運転のために **8**
主要諸元 **19**
各部の名称 **22**
エンジン番号・車台番号 **25**
メータの見方・使い方 **26**
メータユニット 26
(A) 上メータボタン／ (B) 下メータボタン 27
(C) 緑色左／ (D) 緑色右ターンシグナルインジケータ 27
(E) 黄色ABSインジケータ 27
(F) 黄色エンジン警告インジケータ 27
(G) タコメータ／ (H) レッドゾーン 28
(I) 青色ハイビームインジケータ 29
(J) 赤色警告インジケータ 29
(K) バッテリ電圧警告インジケータ 29
(L) 油圧警告インジケータ 29
(M) 水温警告インジケータ 30
(N) 緑色ニュートラルインジケータ 30
(O) マルチファンクションメータ 31
スイッチの使い方 **42**
イグニションスイッチ 42
ステアリングロック 43
左ハンドルスイッチ 44
(A)ディマスイッチ 44
(B)ターンシグナルスイッチ 45
(C)ホーンボタン 45
(D)パッシングボタン 46
右ハンドルスイッチ 46
(A)スタータボタン 46
(B)エンジンストップスイッチ 47
各部の取り扱い方 **48**
サイドスタンド 48
シート 48
同乗者用シートの取り外し 48
同乗者用シートの取り付け 49
運転者用シートの取り外し 50
運転者用シートの取り付け 50
小物入れ 51
荷掛けフック 52
ヘルメットフック 52

ヘルメットフックの使い方 53
ヘルメットロック..... 53
ヘルメットロックの使い方 54
ツールキット..... 54
アクセサリコネクタ..... 55
サスペンションセッティング..... 56
スプリングの初期荷重の調整 56
リヤショックアブソーバの取り扱い方..... 57
セッティング表 58
燃料の補給.....**59**
ガソリンの補給..... 59
正しい運転操作.....**63**
エンジンのかけ方..... 63
ならし運転..... 65
走り方..... 65
シフトダウンの仕方..... 67
ブレーキの使い方..... 67
ABS 69
エンジンの止め方..... 71
エンジンの非常停止..... 71
駐車の仕方..... 71
点検整備について.....**75**
簡単な整備 **76**
ブレーキ液量の点検..... 77
ブレーキライトスイッチの調整..... 78
クラッチレバーの遊びの調整..... 80
エンジンオイルの補給..... 81
冷却液..... 85
冷却液の作り方 85
冷却液の点検 86
冷却液の補給 86
スパークプラグ..... 87
エアクリーナ..... 88
エレメントの交換 88
オイルの排出 88
スロットルケーブル遊びの点検..... 91
調整 91
アイドリング回転速度の調整..... 92
ドライブチェーン..... 92
給油 92
たるみ点検 94
たるみ調整 94
タイヤ..... 97
空気圧 98
亀裂と損傷 99
異常な摩耗 99
溝の深さ 100
バッテリ..... 101
バッテリの取り外しおよび取り付け方..... 101
バッテリ端子部の清掃 102

ヒューズの交換..... 104
車のお手入れ.....106
洗車..... 108
長期間の格納..... 111
環境保護について.....113
DFI自己診断システムコネクタの位置 116
車両情報の記録に関して.....117
イベントデータレコーダ 118
万一の故障に備えて.....120
お客様相談室.....122
リコールについてのお願い 124
適合宣言.....125
バッテリに関する補足情報 127
バッテリ全般に関する情報..... 127
ボタン型電池の追加情報..... 132

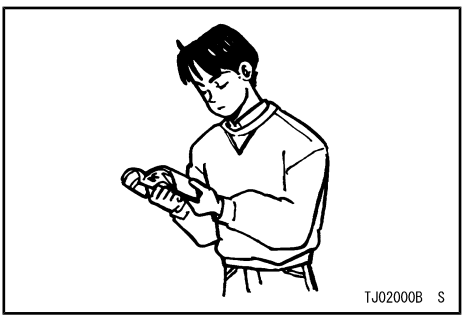
安全運転のために

ここにあげた項目は日常の走行上非常に基本的なものです。これらのことを守って安全運転および上手なオートバイ操作を心がけましょう。

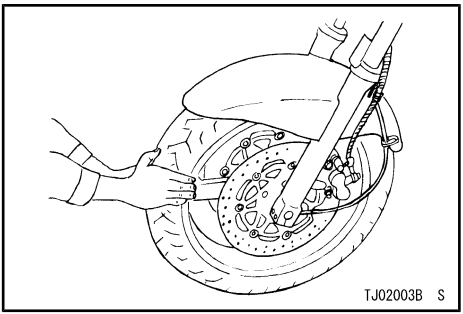
車を購入された当初は、いろいろ注意をはらって運転しますが、少し慣れてくるとこれらの注意を忘れがちになり、事故を起こす場合があります。
車に乗るとき、いつも心がけねばならない重要な注意事項を書いた“安全項目ラベル”が車に貼ってあります。これらの注意をいつもお守りください。

運転する前に

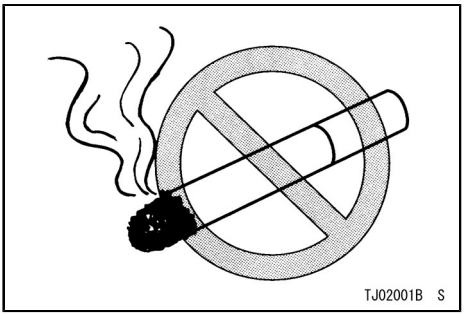
- **取扱説明書をよく読んでください。**
  車の取り扱いをよくご存じの方も、この車特有の構造や取り扱い方がありますので、この説明書を必ずお読みください。



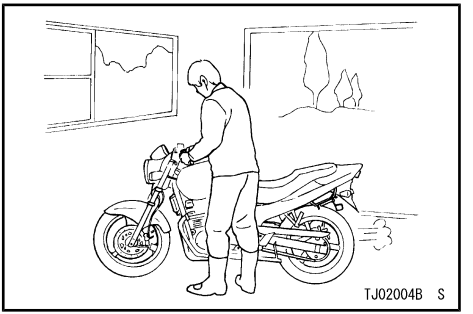
- **日常点検を必ず行ってください。**
  車は常に清潔に手入れをし、定められた点検整備を必ず行いましょう。日常点検については、メンテナンスノートの“日常点検”をご覧ください。



- **定期点検を必ず行ってください。**
  定期点検については、メンテナンスノートの“定期点検”をご覧ください。
- **ガソリンの補給は、必ずエンジンを止め、火気厳禁で行ってください。**



- **排出ガスには、一酸化炭素等の有害な成分が含まれています。エンジン始動、暖機運転は、風通しの良い場所で行ってください。**



服装

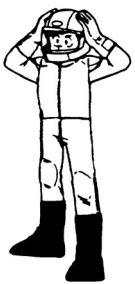
- 運転者と同乗者は、必ずヘルメットを着用してください。これは、法令でも定められています。
  - ヘルメットは正しくかぶり、あごひもを確実に締めてください。
  - ヘルメットは二輪車用でPSCマークのあるものを必ずお選びください。頭にしっくり合って、圧迫感のないものをお選びください。
- ヘルメットにはフェースシールドを取り付けてください。取り付けできないときは、ゴーグルを使用してください。
- 手袋を着用してください。手袋は、摩擦に強い皮製のものが適しています。
- 可能な限り身体の各部（胸、肩、背中、ひじ、ひざ等）を保護する機能のあるライディングウェアを着用してください。または、身体各部を保護するプロテクタを装着してください。
  - 身体の露出が少ない長ズボンと長袖のジャケットを着用してください。疲労を少なくし、万一の転倒時には身体を保護します。

– 動きやすい服を着用してください。
– すその広がったズボンや袖口の広い服は、ブレーキやクラッチ、チェンジ操作の邪魔になり思わぬ事故の原因にもなりますので避けてください。
– 被視認性の観点から、明るく目だつ色の動きやすい服を着用してください。

● 靴は、ブレーキ操作やチェンジ操作のしやすいものを着用してください。また、くるぶしまで覆う、足にあったサイズのものを選んでください。

⚠ 警告

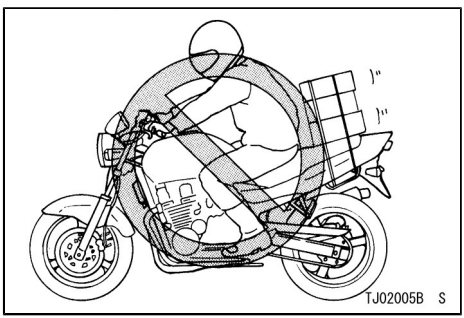
● ヘルメットは正しく着用してください。正しく着用していないと、事故の際、死亡または重大な傷害に至る可能性が高くなります。
● 運転者と同乗者は乗車時、ヘルメット、保護具および保護性の高い服を必ず着用してください。



TJ02002B S

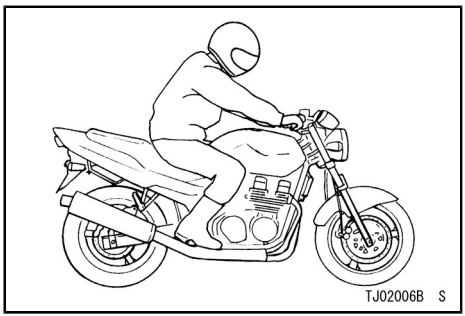
荷物を積むときは

- 荷物を積んだときは、積まないときにくらべて操縦安定性が変わります。荷物を積むときは、**“積み過ぎない”、“荷物をしっかりと固定する”**等充分注意して、安全に走行してください。



乗り方

- 走行中は、運転者は両手でハンドルを握り、両足をステップに置いてください。



- 同乗者には、両手で体をしっかり固定させ、両足は必ず、同乗者用ステップに乗せさせてください。
- この車の乗車定員は2名です。なお、次の運転者は法令により2人乗りすることはできません。

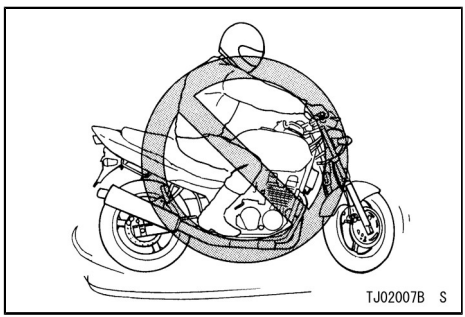
一般道路

免許取得後1年未満の運転者

高速道路

免許取得後3年未満の運転者、20歳未満の運転者、または2人乗り運転が禁止されている区間

- **急激なハンドル操作や片手運転は横すべりや転倒の原因となります。絶対におやめください。**



駐車するときは

⚠ 警告

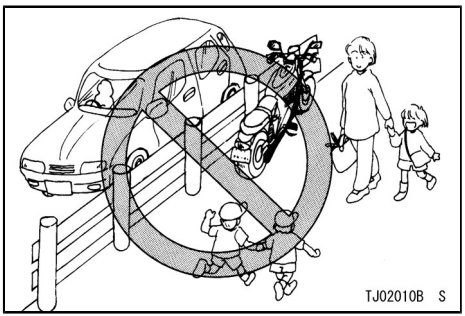
可燃物近くでの運転、駐車は、火災の原因となる可能性があります。背の高い植物、枯れ木、枯れ葉、等の可燃物がマフラ等の排気系部品に触れるような場所で、アイドリングしたり駐車したりしないでください。

⚠ 警告

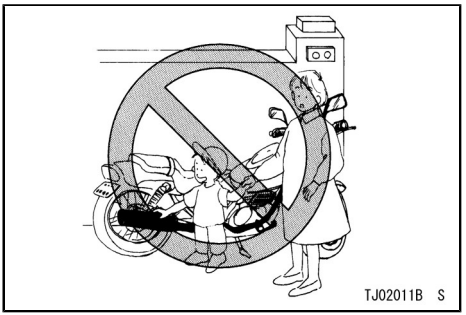
エンジンや排気系統は運転中や停止後しばらくの間は高温のため、やけどをおこす可能性があります。

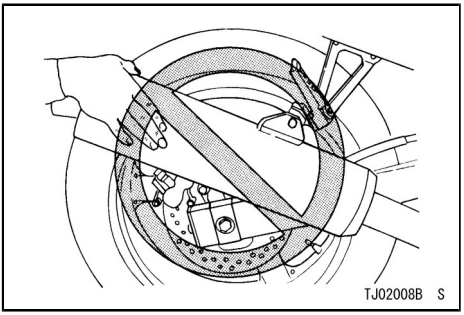
- **エンジンや排気系統には触れないでください。**
- **駐車するときは交通の邪魔にならない、安全な場所で他の方がマフラ、エンジンに触れることのない場所に駐車してください。**

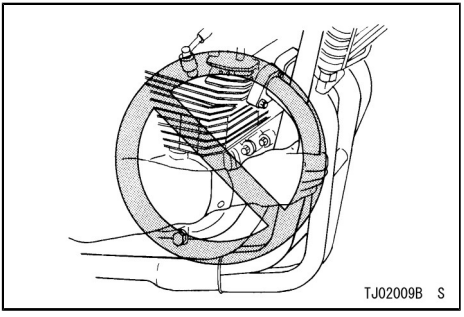
- 車は水平でしっかりとした地面の場所に駐車してください。やむをえず傾斜地や柔らかい地面等の不安定な場所に駐車するときは、車の転倒、動き出しのないよう、安全処置に充分留意してください。
- 交通の邪魔にならない安全な場所に駐車してください。



- エンジン回転中や停止後しばらくの間はマフラ、エンジンに触れないでください。
- マフラ、エンジンが熱くなっています。他の方が触れることのない場所に駐車してください。やむをえず子供が遊ぶ施設や人通りの多いところに駐車するときは、他の方がマフラ、エンジンに触れないように配慮してください。







洗車後や水たまりを走行したときは

- 洗車後や水たまりを走行した後は、ブレーキの効きが悪くなる場合があります。
- ブレーキの効きが悪いときは、周囲の交通状況に充分注意して低速で走行しながら、ブレーキの効きが回復するまでブレーキを軽く作動させて、ブレーキの湿りを乾燥させてください。

タイヤ

- 異なった種類のタイヤを使用したり、指定サイズ以外のタイヤを使用することは、車の走行安定性に悪影響を及ぼしますので使用しないでください。

調整

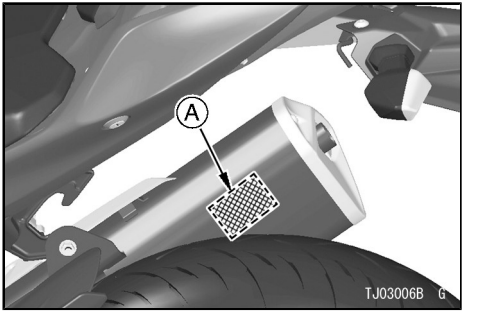
- 自己流のエンジン調整、部品の取り外しは行わないでください。エンジンの調整はカワサキ正規取扱店におまかせください。

触媒装置

- この車のマフラには、触媒装置が内蔵されています。この触媒装置の働きによって排出ガスに含まれる一酸化炭素（CO）、炭化水素（HC）、窒素酸化物（NOx）の有害物質の排出量を低減します。
  触媒装置の適切な使用のため、下記の注意点をご確認ください。

改造

- **車の構造や機能に関係する改造は、操縦性を悪化させたり、排気音を大きくしたり、ひいては車の寿命を縮めることになります。**
- **車を改造することは法律に触れることは勿論、他の人への迷惑行為となります。**
- **他のマフラをこの車に取り付けますと、排出ガス規制に適合しなくなる可能性があります。マフラを交換する場合はカワサキ正規取扱店にご相談ください。**
- **マフラには、カワサキ純正部品を表わす“Kawasaki”マークが刻印されています。**



A. Kawasakiマーク

⚠ 警告

可燃物近くでの運転、駐車は、火災の原因となる可能性があります。背の高い植物、枯れ木、枯れ葉、等の可燃物がマフラ等の排気系部品に触れるような場所で、アイドリングしたり駐車したりしないでください。

⚠ 警告

エンジンや排気系統は運転中や停止後しばらくの間は高温のため、やけどをおこす可能性があります。

- **エンジンや排気系統には触れないでください。**
- **駐車するときは交通の邪魔にならない、安全な場所で他の方がマフラ、エンジンに触れることのない場所に駐車してください。**

昼間もヘッドライトオン

- この車は、イグニションスイッチをオンにすると、ヘッドライトが点灯するデイライトシステム（昼間点灯システム）を採用しています。

注意

- **イグニションスイッチがオンのまま、またはエンジン始動後、アイドリング状態で長時間放置すると、バッテリあがりの原因となります。**
- **車から離れるときは必ずステアリングロックをかけ、キーを抜いてお持ちください。金属製キーホルダは、使用しないでください。また、イグニションキーにリング等で他のキーをつなげないでください。走行中、キーホルダや他のキーが車の部品を傷つけたり、キーシリンダの損傷の原因となります。**

カウリングの取り扱い上の注意

- 走行中は、カウリングと車体の間に、物を置かないでください。ハンドル操作に悪影響を及ぼすおそれがあります。
- ブレーキ液、ガソリン、洗浄液等の化学物質が、スクリーンやカウリング本体にかかると、損傷の原因となりますので注意してください。
- スクリーンを洗浄する時は、表面を傷つけないように、水またはぬるま湯をかけながら、柔らかい布またはスポンジで拭いてください。

主要諸元

エンジン

エンジンオイル	カワサキ純正4サイクルオイル（83ページ参照）
エンジンオイル量	2.0 L
冷却液量	1.3 L
スパークプラグ	NGK SILMAR9B9
スパークプラグギャップ	0.8 ~ 0.9 mm

フレーム

タイヤサイズ：	
前輪	110/70-17 M/C 54H
後輪	140/70-17 M/C 66H
燃料タンク容量（車体直立状態）	14 L
ブレーキフルード	DOT4

電装品

バッテリ	12 V 8 Ah (10 HR)

ヘッドライト：	
ハイビーム	LED
ロービーム	LED
ポジションライト	LED
ブレーキ／テールライト	LED
ターンシグナルライト：	
フロント	12 V 10 W (RY10W)
リヤ	12 V 10 W (WY10W)
ライセンスプレートライト	12 V 5 W (W5W)

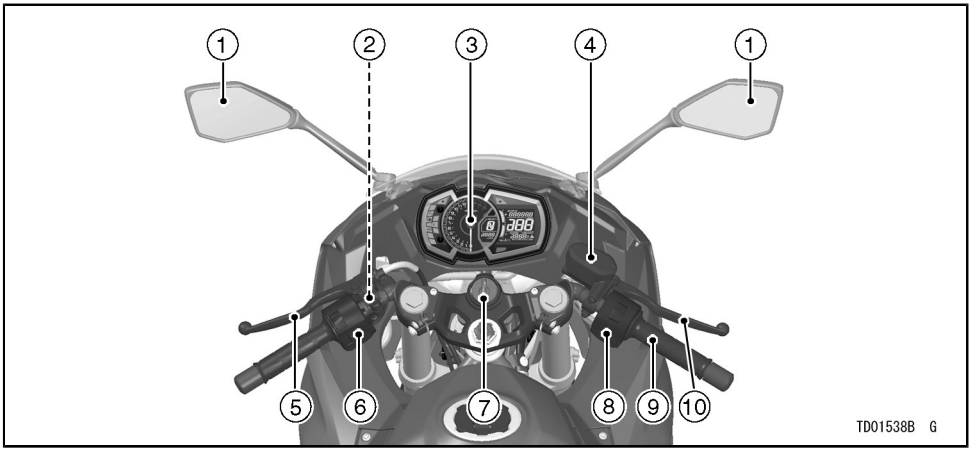
この車のポジションライト、ブレーキ／テールライトとヘッドライトにはLED（発光ダイオード）を採用しています。LEDライトが一つでも点灯しない時は、カワサキ正規取扱店にご相談ください。

詳しい諸元の情報については、カワサキウェブサイトで最新情報をご確認ください。また、仕様は予告なく変更される場合があります。

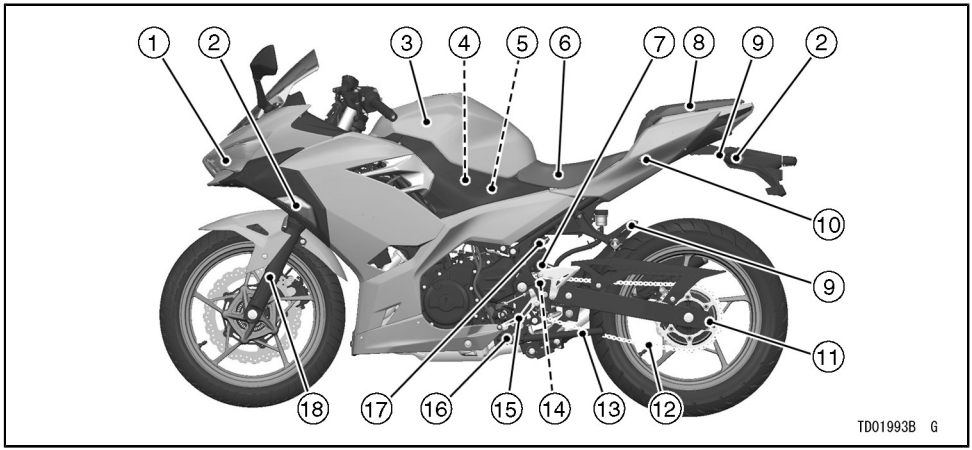
【主要諸元】
https://pws.ktivs.net/dispeBook?file=99888-0164-01&lang_code=JA

998880164JA

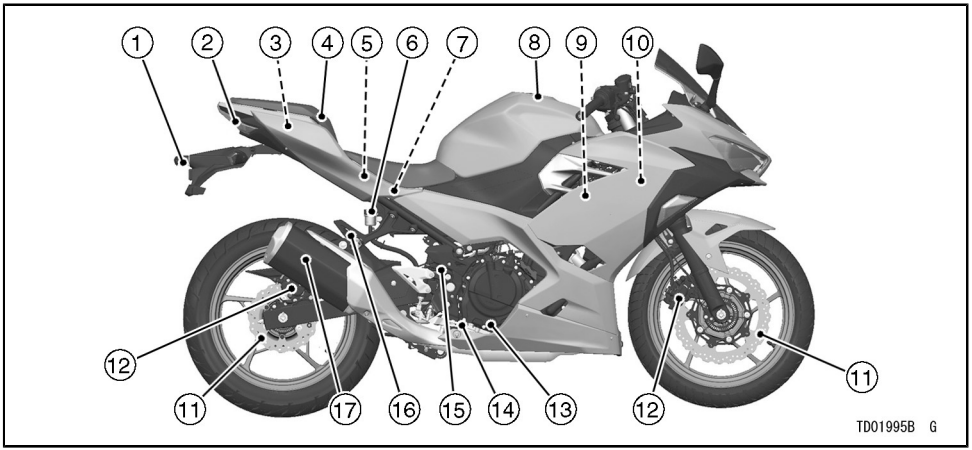
各部の名称



1. バックミラー
2. スタータロックアウトスイッチ
3. メータユニット
4. ブレーキリザーバ（フロント）
5. クラッチレバー
6. 左ハンドルスイッチ
7. イグニションスイッチ／ステアリングロック
8. 右ハンドルスイッチ
9. スロットルグリップ
10. フロントブレーキレバー



1. ヘッドライト
2. ターンシグナルライト
3. 燃料タンク
4. エアクリーナ
5. ヒューズボックス
6. 運転者用シート
7. スプリング初期荷重アジャスタ
8. 同乗者用シート
9. 荷掛けフック
10. シートロック
11. チェーンアジャスタ
12. ドライブチェーン
13. サイドスタンド
14. リヤショックアブソーバ
15. シフトペダル
16. サイドスタンドスイッチ
17. ヘルメットロック
18. フロントフォーク



1. ライセンスプレートライト
2. ブレーキ／テールライト
3. ヘルメットフック
4. シートストラップ
5. ツールキット
6. ブレーキリザーバ(リヤ)
7. バッテリ
8. 燃料タンクキャップ
9. スパークプラグ
10. 冷却液リザーブタンク
11. ブレーキディスク
12. ブレーキキャリパ
13. オイルレベル点検窓
14. ブレーキペダル
15. リヤブレーキライトスイッチ
16. リヤステップ
17. マフラ

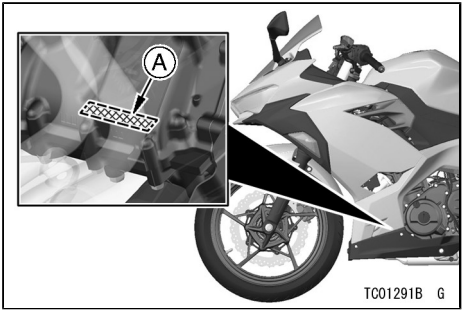
エンジン番号･車台番号

エンジン番号・車台番号は車の登録のために使われます。これらの番号はカワサキ正規取扱店に部品を注文する時に必要であり、盗難にあった場合、多くの同機種の車、あるいはいくらか特徴の似ている車の中からあなたの車を捜し出す手掛かりにもなります。

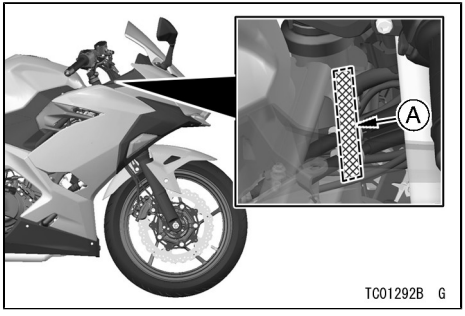
あなたの車のエンジン番号・車台番号を下記の欄に記入してください。

エンジン番号

車台番号



A. エンジン番号

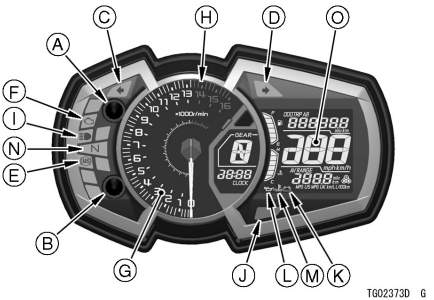


A. 車台番号

メータの見方・使い方

メータユニット

A. 上メータボタン
B. 下メータボタン
C. 緑色左ターンシグナルインジケータ
D. 緑色右ターンシグナルインジケータ
E. 黄色ABSインジケータ
F. 黄色エンジン警告インジケータ
G. タコメータ
H. レッドゾーン
I. 青色ハイビームインジケータ
J. 赤色警告インジケータ
K. バッテリ電圧警告インジケータ
L. 油圧警告インジケータ
M. 水温警告インジケータ
N. 緑色ニュートラルインジケータ
O. マルチファンクションメータ



(A)上メータボタン／(B)下メータボタン

メータの上メータボタンまたは下メータボタンを操作することにより、マルチファンクションメータ の表示の切り替えや、表示の設定を変更することができます。

(C)緑色左／(D)緑色右ターンシグナルインジケータ

⇦⇨ ：ターンシグナルスイッチを ⇦ の方に入れると左ターンシグナルインジケータが、 ⇨ の方に入れると右ターンシグナルインジケータが点滅します。

(E)黄色ABSインジケータ

ABS ：通常ABSインジケータは、イグニションスイッチをオンにしたときに点灯し、走り始めると消灯します。

ABSが正常な場合は、インジケータは消灯したままになります。

ABSに異常がある場合は、インジケータが点灯したままになります。

インジケータが点灯しているときは、ABSは作動しません。しかし、ABSが故障しても通常のブレーキシステムは正常に作動します。

詳しい説明は、「正しい運転操作」の章の「ABS」の項を参照してください(69ページを参照)。

(F)黄色エンジン警告インジケータ

：エンジン警告インジケータは、イグニションスイッチをオンにしたときに点灯し、エンジン始動後に消灯します。エンジン警告インジケータは、FI（フューエルインジェクション）システムに異常が発生したときに点灯または点滅します。

もしエンジン始動後に点灯または点滅し続けた場合は、カワサキ正規取扱

店でFI（フューエルインジェクション）システムの点検をお受けください。

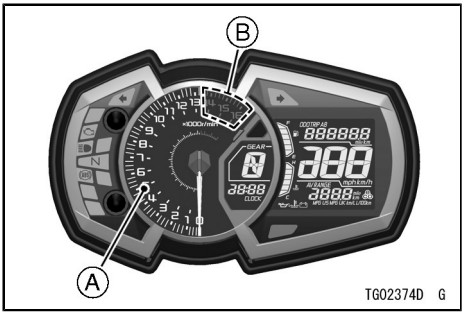
(G)タコメータ／(H)レッドゾーン

タコメータは毎分のエンジン回転速度を示します。タコメータにはレッドゾーンがあります。

指針がレッドゾーンに入らないように運転してください。

注意

レッドゾーンは、エンジンの許容回転速度を超える領域を示したもので、レッドゾーンに入るような運転あるいはレッドゾーン内での運転は、エンジン故障の原因となりますので、そのような運転をしないようにお願いします。



A. タコメータ
B. レッドゾーン

イグニションスイッチをオンにすると、動作確認のため、タコメータの指針が最大位置まで動き、その後“0”に戻ります。もし、メータの指針が正常に動かないときは、カワサキ正規取扱店にご相談ください。

(I)青色ハイビームインジケータ

：ハイビームインジケータは、ヘッドライトの照射をハイビーム（上向き）にすると点灯します。

(J)赤色警告インジケータ

：赤色警告インジケータは、イグニションスイッチをオンにしたときに点灯し、エンジンが始動すると消灯します。赤色警告インジケータが点灯したときは、マルチファンクションメータのバッテリ電圧警告インジケータ、油圧警告インジケータ、水温警告インジケータのいずれかも点灯しています。もし点灯したときは、これらの警告インジケータを確認してください。

(K)バッテリ電圧警告インジケータ

：バッテリ電圧警告インジケータは、イグニションスイッチをオンにしたときに点灯し、すぐに消灯します。バッテリ電圧警告インジケータは、バッテリ電圧が11.0V以下または16.0V以上のときに点灯します。11.0V以下の場合は、バッテリを充電してください。

16.0V以上の場合もしくはバッテリを充電した後でも点灯する場合は、バッテリまたは充電系統についてカワサキ正規取扱店にて点検をお受けください。

(L)油圧警告インジケータ

：油圧警告インジケータは、イグニションスイッチをオンにしたときに点灯し、エンジンが始動すると消灯します。走行中に点灯するのは潤滑系統の異常です。

もし走行中に点灯した場合は、エンジンを停止し、エンジンオイル量を点検してください。オイル量が正常でも

点灯する場合は、カワサキ正規取扱店で点検をお受けください。

⚠ 警告

警告インジケータが点灯したまま走行を続けると、エンジン不調により事故につながる可能性があります。点灯したら直ちにカワサキ正規取扱店に相談してください。

(M)水温警告インジケータ

：水温警告インジケータは、イグニションスイッチをオンにしたときに点灯し、すぐに消灯します。水温警告インジケータは、冷却液が高温になると点灯します。もし水温警告インジケータが点灯した場合は、エンジンを停止し、エンジンが冷えてからリザーブタンクの冷却液の量を点検してください。カワサキ正規取扱店で冷却システムの点検をお受けください。

注意

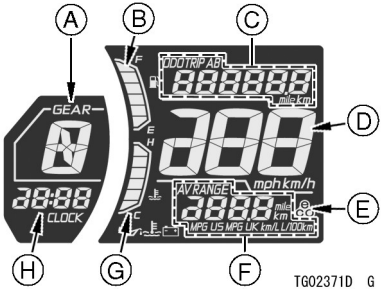
水温警告インジケータが点灯した時は走行しないでください。もし続けて走行すると、エンジンが損傷する原因となります。

(N)緑色ニュートラルインジケータ

N ：緑色ニュートラルインジケータは、トランスミッションがニュートラルのときに点灯します。

(O)マルチファンクションメータ

A. ギヤポジションインジケータ
B. 燃料計
C. マルチファンクションディスプレイ
  – オドメータ
  – トリップメータA
  – トリップメータB
D. スピードメータ
E. ECO走行インジケータ
F. マルチファンクションディスプレイ
  – 瞬間燃費
  – 平均燃費
  – 航続可能距離
G. 水温計
H. 時計

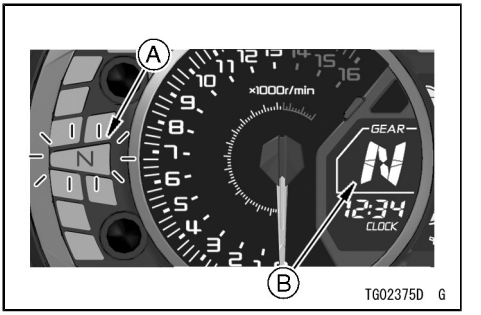


イグニションスイッチをオンにすると、全てのLCDセグメントが表示され、数秒間オープニング表示を行います。その後、通常動作の状態で表示されます。

ギヤポジションインジケータ

トランスミッションがシフトされたときに、対応するギヤ位置（1速から6速）を表示します。ギヤがニュートラルのときは、ニュートラルインジケータが点灯します。

1	ギヤが1速に入っているときは、“1”を表示します。
2	ギヤが2速に入っているときは、“2”を表示します。
3	ギヤが3速に入っているときは、“3”を表示します。
4	ギヤが4速に入っているときは、“4”を表示します。
5	ギヤが5速に入っているときは、“5”を表示します。
6	ギヤが6速に入っているときは、“6”を表示します。



A. 緑色ニュートラルインジケータ
B. ギヤポジションインジケータ

アドバイス

○ マルチファンクションメータのギヤポジションが“–”を表示しているときは、ギヤが正しく1速に入っていません。ギヤを確実に入れてください。

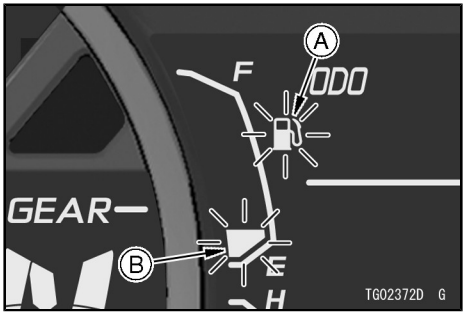
燃料計

燃料タンクの残量は、表示されるセグメントの数によって示されます。燃料が満タンの時は、燃料計の全セグメ

ントが表示されます。燃料計が正しく表示されない場合は、カワサキ正規取扱店で燃料計の点検をお受けください。燃料が減るに従ってセグメントは“F”から順に“E”の方へ消えていき、燃料タンク内の残量を示します。残量が少なくなると、一番下のセグメントと燃料シンボルが点滅します。燃料を早めに補給してください。

点滅時の燃料残量：2.9 L

サイドスタンド状態においては、燃料計は燃料量を正確に表示しません。車体を正立状態にして、燃料量の確認を行ってください。



A. 燃料シンボル
B. セグメント（E）

全てのセグメントと燃料シンボルが点滅した場合、配線の断線やショートが考えられます。カワサキ正規取扱店にて配線の点検をお受けください。

キロメートル・マイル単位表示

“km/h·mph”
マルチファンクションメータ内の単位表示は、切り替えることができます。

スピードメータ:

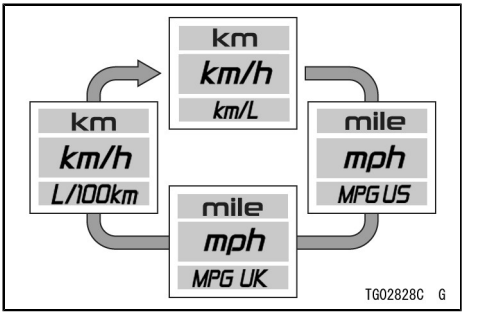
キロメートル（km/h）・マイル（mph）

日本国内では、スピードメータの表示をキロメートル（km/h）に合わせてください。

アドバイス

○ 誤った単位を表示して走行しないでください。切り替え方法は、以下の手順に従ってください。

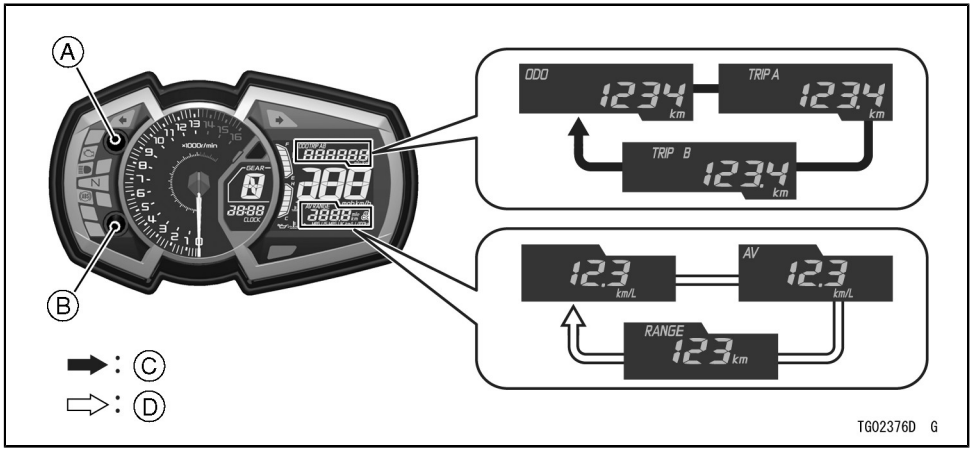
- 上メータボタンを押して、オドメータを表示します。
- 上メータボタンを押しながら下メータボタンを押すと、メータの単位表示が次のように切り替わります。



マルチファンクションディスプレイ

表示切り替え

メータの上メータボタンまたは下メータボタンを操作することにより、マルチファンクションディスプレイの表示を次のように切り替えることができます。



A. 上メータボタン
B. 下メータボタン
C. 上メータボタンを押したときの切り替え順序
D. 下メータボタンを押したときの切り替え順序

⚠ 警告

走行中にデジタルメータの表示の切り替えを行うと走行安定性を失い事故につながる可能性があります。走行中は操作を行わないでください。走行中は両手でハンドルを握り、両足をステップに置いてください。

オドメータ

“ODO”

走行した総走行距離を示します。定期点検整備の目安となります。オドメータは“0”に戻すことはできません。



アドバイス

- 総走行距離のデータはバッテリが放電またはバッテリを取り外した場合でも継続されます。
- オドメータは、“999999”までカウントできます。それを超えた場合は“999999”の表示で固定されます。

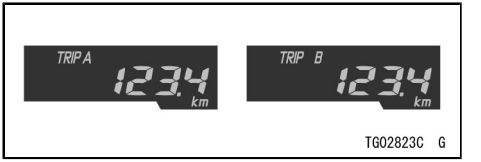
トリップメータA/B

“TRIP A” “TRIP B”

メータを“0.0”に戻した時点からの走行距離を示します。

TRIP A（トリップメータA） 0.0 ~ 9999.9

TRIP B（トリップメータB） 0.0 ~ 9999.9



トリップメータを“0.0”に戻すときは、下記の手順で行います。

- 上メータボタンを押して、トリップメータAまたはトリップメータBを表示します。
- 上メータボタンを2秒以上押すと“0.0”に戻ります。

アドバイス

○ トリップメータは、“9999.9”までカウントしたとき“0.0”に戻ります。

瞬間燃費

瞬間燃費を表示します。表示は4秒毎に更新されます。



アドバイス

○ イグニションスイッチをオンにしたとき、数値は“– –.–”が表示されます。走行した数秒後に数値が表示されます。

平均燃費

測定を開始した時点からの平均燃費を表示します。表示は5秒毎に更新されます。



平均燃費が表示されているときに、下メータボタンを長押しすると“– –.–”に戻ります。

アドバイス

○ 平均燃費リセット後は、100 m走行するまでは数値が表示されません。

○ 平均燃費は、イグニションスイッチがオフでも“– –.–”に戻りません。しかし、バッテリが放電またはバッテリを取り外した場合には、平均燃費は“– –.–”に戻ります。

航続可能距離

燃料タンク残量に基づいて、航続可能距離を表示します。表示は20秒毎に更新されます。



アドバイス

○ 燃料が少なくなり燃料シンボルが点滅し始めた後、しばらく走行を続けると航続可能距離は表示されなくなります。
○ 燃料を補給すれば燃料シンボルの点滅は止まり、航続可能距離は表示されるようになります。航続可能距離は、燃料残量が少ないときにでも表示されますが正確ではありません。

スピードメータ

走行中の速度を示します。法定速度を守り安全走行してください。

ECO走行インジケータ

運転者が燃料消費を抑えた走行を行っているとき、ECO走行インジケータがマルチファンクションメータに表示され、低燃費走行であることが確認できます。ECO走行インジケータが表示される運転を心がけることで、燃料効率を高めることができます。



A. ECO走行インジケータ

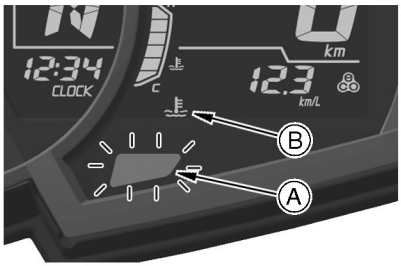
⚠ 警告

ECO走行インジケータに気を取られ過ぎて道路や交通の状況への注意を怠ると、死亡や傷害につながる事故を引き起こす可能性があります。常に広い視野をもって運転してください。

水温計

冷却液の温度を示します。

水温は水温計内のCとHの間をセグメントによって表示されます。水温計が正しく表示されないときは、カワサキ正規取扱店にご相談ください。水温が高温になると、全6セグメントが表示され、水温警告インジケータと赤色警告灯インジケータが点灯します。もし水温警告インジケータと赤色警告インジケータが点灯したときは、エンジンを止めエンジンが冷えてからリザーブタンクの冷却液の量を点検してください。カワサキ正規取扱店で、冷却システムの点検をお受けください。



A. 赤色警告インジケータ
B. 水温警告インジケータ

注意

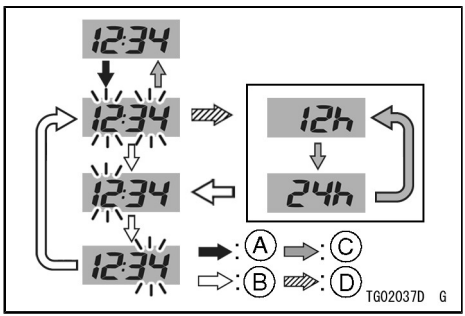
水温警告インジケータが点灯した時は走行しないでください。もし続けて走行すると、エンジンが損傷する原因となります。

時計

“CLOCK”
時刻を表示します。

時計の時刻調整の仕方

- イグニションスイッチをオンにします。
- 上メータボタンと下メータボタンを2秒以上押して時刻調整モードにします。時刻調整モードになると表示中の＜時＞と＜分＞の数字が点滅します。
- 下メータボタンを2秒以上押して12／24時間表示モードにします。
- 上メータボタンを押して12または24時間表示を選択します。
- 下メータボタンを1回ずつ押すと、時刻調整モードに戻り、点滅位置が＜時＞→＜分＞に順次変わります。数字を合わせたいところに点滅位置を合わせます。
- 数字合わせは上メータボタンを押して行います。
- 時刻を合わせ終われば、下メータボタンを押して、＜時＞と＜分＞の数字を点滅させます。
- 最後に上メータボタンを押します。これで表示の点滅はなくなり、時計の表示に戻ります。



A. 上メータボタンと下メータボタンを2秒以上押したときの切り替え順序
B. 下メータボタンを押したときの切り替え順序
C. 上メータボタンを押したときの切り替え順序
D. 下メータボタンを2秒以上押したときの切り替え順序

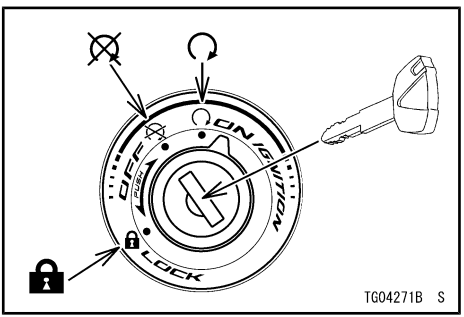
アドバイス

- 時計はイグニションスイッチがオフでも動いています。しかし、バッテリが放電またはバッテリを取り外した場合には、時計が“1:00”(24時間表示では“13:00”)にリセットされるため表示時間を調整する必要があります。
- 表示時間を調整するときは、上メータボタンを1回ずつ押すと、1時間毎または1分毎に変わります。上メータボタンを押した状態にすると時間または分の単位が連続して変わります。

スイッチの使い方

イグニションスイッチ

イグニションスイッチは3段切換えです。キーを回してオン、オフ、ロックを切り替えます。



キーの位置	作用	キーの脱着
ON ↻	エンジンは始動し走行できる。すべての電装部品が使用できる。	抜けない
OFF ⊗	エンジンが停止する。エンジンは始動できない。電気回路を遮断する。	抜ける
LOCK 🔒	エンジンは始動できない。電気回路を遮断する。ステアリングがロックされる。	抜ける

⚠ 警告

走行中にイグニションキーをオフやロックに操作すると電気系統の作動が停止し、負傷や死亡事故につながる可能性があります。イグニションキーは必ず停車中に操作してください。

アドバイス

○ イグニションスイッチをオンにしたとき、ヘッドライト、ポジションライト、テールライト、ライセンスプレートライトが点灯します。

注意

- **イグニションスイッチがオンのまま、またはエンジン始動後、アイドリング状態で長時間放置すると、バッテリあがりの原因となります。**
- **車から離れるときは必ずステアリングロックをかけ、キーを抜いてお持ちください。金属製キーホルダは、使用しないでください。また、イグニションキーにリング等で他のキーをつなげないでください。走行中、キーホルダや他のキーが車の部品を傷つけたり、キーシリンダの損傷の原因となります。**

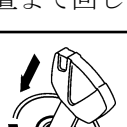
ステアリングロック

車から離れるときは、盗難予防のため必ずステアリングロックをかけ、キーを抜いてお持ちください。

チェーンロック等のご使用もおすすめします。

かけ方

- ハンドルを左にきります。
- ロックの位置にするときは、オフの位置でキーを押し込み、そのままロックの位置まで回します。



- ハンドルを軽く左右に動かし確実にロックされているか確認します。
- キーを抜きます。

⚠ 警告

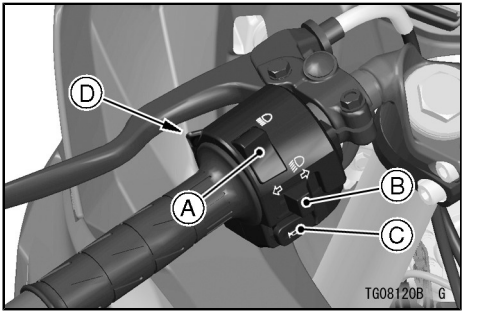
エンジンや排気系統は運転中や停止後しばらくの間は高温のため、やけどをおこす可能性があります。
- **エンジンや排気系統には触れないでください。**
- **駐車するときは交通の邪魔にならない、安全な場所で他の方がマフラ、エンジンに触れることのない場所に駐車してください。**

はずし方
- キーを差し込みます。
- キーをオフの位置まで回します。

⚠ 警告

ハンドルのきれ角が左右均等でないと、死亡または重大な傷害となる事故につながる可能性があります。走行前にハンドルを左右に動かして、ハンドルのきれ角が左右均等であることを確認してください。

左ハンドルスイッチ



A. ディマスイッチ
B. ターンシグナルスイッチ
C. ホーンボタン
D. パッシングボタン

(A)ディマスイッチ

ヘッドライトの照射の上下切り替えはディマスイッチで行います。ヘッドライトの照射をハイビーム（上向き）

にすると、ハイビームインジケータが点灯します。

≡D ･･･上向き　　≡D ･･･下向き

アドバイス

○ ヘッドライト点灯時にレンズ部分を衣類等でさえぎらないでください。ヘッドライトの熱によりレンズ部が変色、溶損等を引き起こす可能性が有ります。また、さえぎった衣類等にも影響を及ぼす可能性がありますので、行わないでください。

(B)ターンシグナルスイッチ

右左折するときや進路を変更するときは、ターンシグナルで合図します。

スイッチを左（ ⇦ ）または右（ ⇨ ）に入れると、メータユニットのターンシグナルインジケータが、ターンシグナルライトと共に点滅します。

⇦ ･･･左折　　⇨ ･･･右折

⚠ 警告

ターンシグナルスイッチは自動的に解除しません。使用後は必ずスイッチを操作して解除してください。つけたままにしておくと他の方の判断を誤らせて事故をまねく可能性があります。

注意

正規のワット数以外の電球を使用するとターンシグナルライトは正常に作動しません。必ず正規のワット数のものを使用してください。

(C)ホーンボタン

ホーンボタンを押すとホーンが鳴ります。ホーンが正常に作動しない時は、ホーンが故障しています。

アドバイス

○ 必要なとき以外は使用しないでください。

(D)パッシングボタン

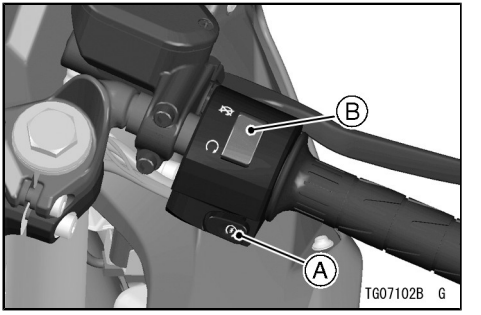
ボタンを押すとヘッドライトのハイビーム（上向き）が点灯します。先行車を追い越すとき等他車に対して合図をするときに使用します。

アドバイス

○ パッシングボタンは人差し指で操作してください。

○ ディマスイッチが ≡D（上向き）の位置の時は使用できません。

右ハンドルスイッチ



A. スタータボタン
B. エンジンストップスイッチ

(A)スタータボタン

イグニションスイッチをオンにし、エンジンストップスイッチを ↺ の位置にしてスタータボタンを押すと、スタータが作動してエンジンが始動します。

注意

スタータモータを連続して回転させないでください。消費電力が多いためバッテリあがりの原因となります。

(B)エンジンストップスイッチ

エンジンを始動するときは、イグニションスイッチをオンにすると共にエンジンストップスイッチを ⟳ の位置にします。 ⊠ の位置ではエンジンは始動できません。

エンジンストップスイッチは、転倒またはスロットル系統に故障を生じたとき等の非常時にエンジンを停止させるために使用します。

注意

- **エンジンストップスイッチでエンジン停止後、すぐにイグニションスイッチをオフにしてください。オンのままにしておくと、バッテリあがりの原因となります。**
- **走行中にエンジンストップスイッチを ⟳ → ⊠ → ⟳ にするとエンジン回転が円滑に作動しなくなり、エンジンに悪影響を及ぼす原因となります。**

各部の取り扱い方

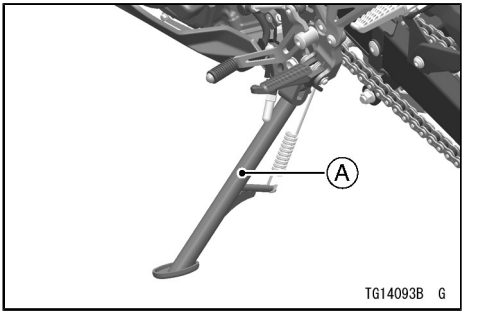
サイドスタンド

この車にはサイドスタンドがあります。

サイドスタンドを使ったときは、発進する前に、サイドスタンドを確実に格納する習慣をつけてください。サイドスタンドが降りたままギヤを入れると、サイドスタンドスイッチとスタータロックアウトスイッチが働いて、自動的にエンジンが止まります。

アドバイス

- **サイドスタンドを使用する時には、ハンドルを必ず左にきってください。**
- **車から離れる前にサイドスタンドが確実にセットされているか確認してください。**



A. サイドスタンド

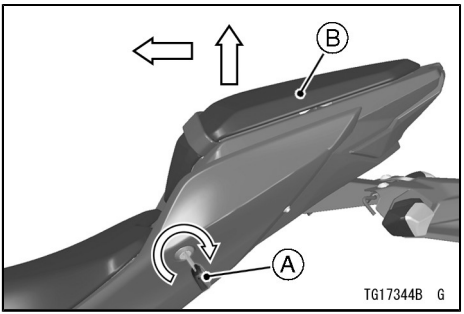
シート

シートは同乗者、運転者の順で取り外し可能です。

同乗者用シートの取り外し

- シートロックにイグニションキーを差し込みます。

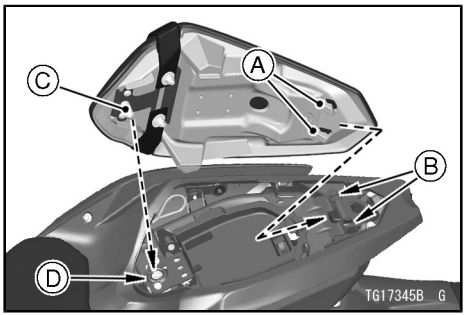
- イグニションキーを時計回りに回しながら、同乗者用シートの前側を持ち上げます。
- 同乗者用シートを前方へ取り外します。
- イグニションキーを抜き取ります。



A. イグニションキー
B. 同乗者用シート

同乗者用シートの取り付け

- 同乗者用シートの後側にあるフックをフレームのスロットに差し込みます。
- 同乗者用シートの前側にある突起部をラッチ穴に差し込みます。
- 同乗者用シートの前側を下に押して、シートをロックします。

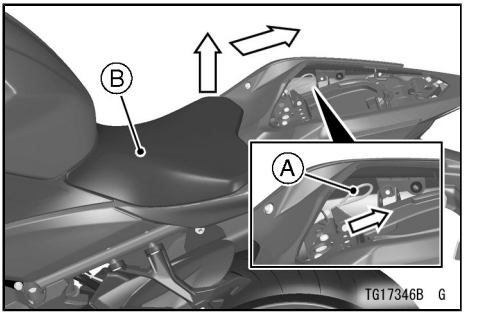


A. フック
B. スロット
C. 突起部
D. ラッチ穴

- 同乗者用シートの前後を軽く持ち上げて、シートが確実にロックされていることを確認します。

運転者用シートの取り外し

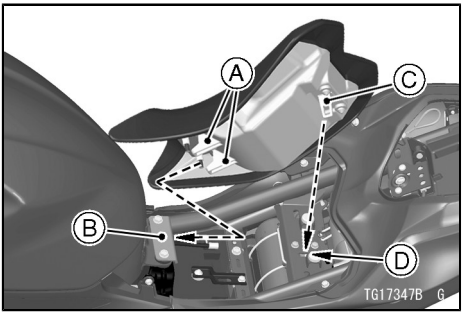
- 同乗者用シートを取り外します(48ページを参照)。
- シートロックケーブルを後方へ引きながら、運転者用シートの後側を持ち上げます。
- 運転者用シートを後方へ取り外します。



A. シートロックケーブル
B. 運転者用シート

運転者用シートの取り付け

- 運転者用シートの前側にあるフックを燃料タンクブラケットの下に差し込みます。
- 運転者用シートの後側にあるシートラッチをフレームのラッチ穴に差し込みます。
- 運転者用シートの後側を下に押して、シートをロックします。



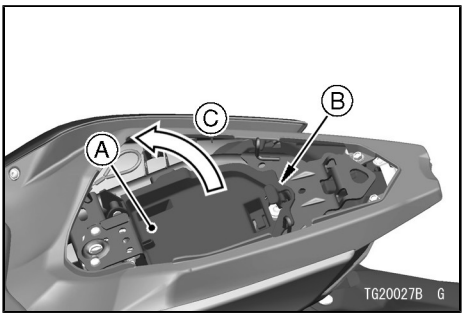
A. フック
B. 燃料タンクブラケット
C. シートラッチ
D. ラッチ穴

- 運転者用シートの前後を軽く持ち上げて、シートが確実にロックされていることを確認します。
- 同乗者用シートを取り付けます(49ページを参照)。

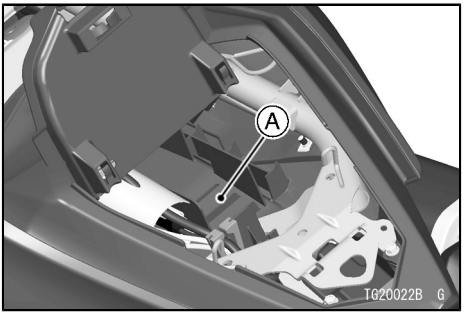
小物入れ

小物入れは、同乗者用シートの下にあります。

- タブを引いて、仕切りカバーを開きます。



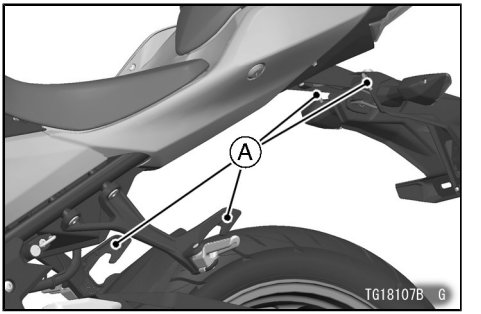
A. 仕切りカバー
B. タブ
C. 開く



A. 小物入れ

荷掛けフック

シートに軽い荷物を結びつける場合、左右の荷掛けフックを使用してください。



A. 荷掛けフック

ヘルメットフック

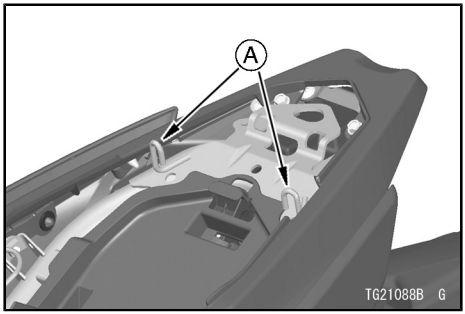
ヘルメットをかけるためのヘルメットフックが同乗者用シートの下にあります。

⚠ 警告

ヘルメットをヘルメットフックにつけた状態で走行すると、走行の妨げになり事故につながる危険性があります。また、ヘルメットに損傷を与え機能を低下させる可能性があります。ヘルメットをヘルメットフックにつけたまま走行しないでください。

ヘルメットフックの使い方

- 同乗者用シートを取り外してヘルメットの金具をヘルメットフックにかけます。そして同乗者用シートを取り付けてロックします。



A. ヘルメットフック

ヘルメットロック

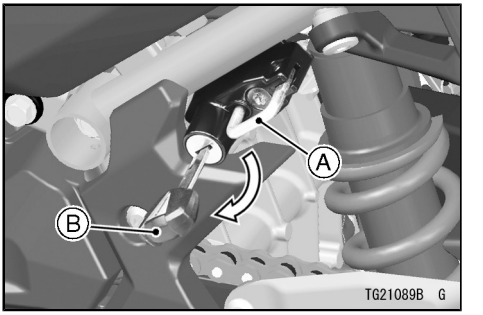
この車には、ヘルメットをかけるためのヘルメットロックがあります。ヘルメットロックは、車体の左側にあります。

⚠ 警告

ヘルメットをヘルメットロックにつけた状態で走行すると、走行の妨げになり事故につながる危険性があります。また、ヘルメットに損傷を与え機能を低下させる可能性があります。ヘルメットをヘルメットロックにつけたまま走行しないでください。

ヘルメットロックの使い方

- ヘルメットロックにイグニションキーを差し込み、キーを時計回りに回してロックをはずします。
- ヘルメットロックのフックにヘルメットの金具をかけます。
- フックを閉じてキーを抜きます。



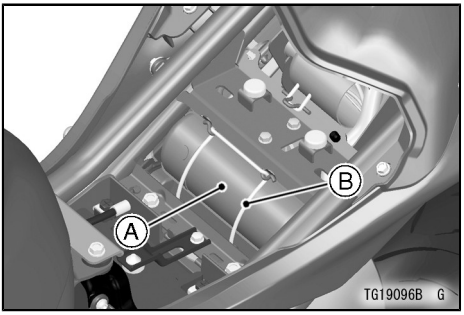
A. ヘルメットロック
B. イグニションキー

アドバイス

○ **ヘルメットロックは、常にロックした状態にしておいてください。**

ツールキット

ツールキットは運転者用シートの下にあります。ツールキットは整備や調整などに使用するので常備してください。



A. ツールキット
B. バンド

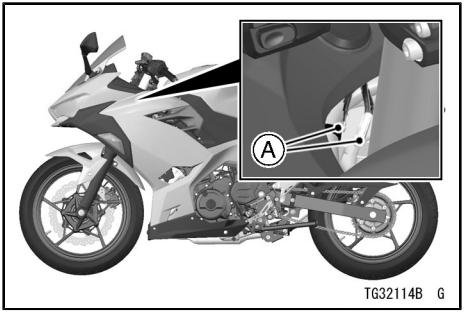
アクセサリコネクタ

この車には、アクセサリコネクタがあります。

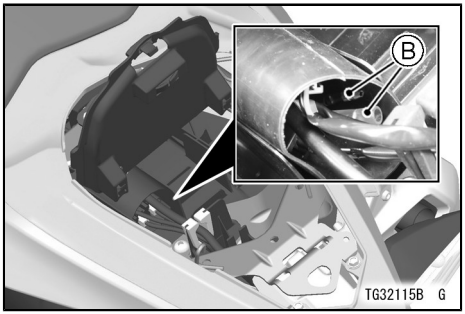
アドバイス

○ アクセサリコネクタをご使用になる場合は、専用のリレーが必要となるモデルがあります。

○ アクセサリコネクタをご使用になる場合は、カワサキ正規取扱店にご相談ください。



A. アクセサリコネクタ（アッパインナカウリングの下）



B. アクセサリコネクタ（仕切りカバーの下）

アクセサリコネクタ		定格ヒューズ	許容電力合計
A	アクセサリ	5A	25 W
B	アクセサリ		

注意

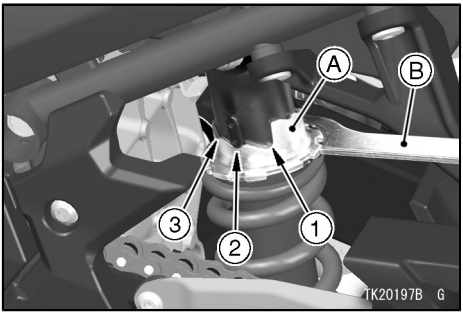
- **アクセサリ用回路には必ず定格のヒューズを使用してください。**
- **このアクセサリ用回路には許容以上の負荷をかけないでください。負荷が大きくなると、エンジンをかけていてもバッテリが放電する可能性があります。**

サスペンションセッティング

リヤショックアブソーバスプリングの初期荷重を、運転者の好みや運転の状態、路面、積荷の状態に応じて調整できます。

スプリングの初期荷重の調整

スプリングの初期荷重は、ツールキット（車載工具）に入っているフックレンチを使ってリヤショックアブソーバのアジャスタを回すことにより調整できます。



A. アジャスタ
B. フックレンチ（車載工具）

アドバイス

○ 標準値と調整範囲は、「セッティング表」を参照してください(58ページを参照)。

リヤショックアブソーバの取り扱い方

⚠ 警告

リヤショックアブソーバには、高圧窒素ガスが封入されています。取り扱いを誤ると爆発する可能性があります。

- **リヤショックアブソーバを火中に投棄しないでください。火中に投棄すると爆発が起こり、危険です。**
- **リヤショックアブソーバは穴をあけたり、分解をしないでください。穴をあけたり分解を行うとオイルが吹き出し、危険です。**

アドバイス

○ リヤショックアブソーバを廃棄するときは、カワサキ正規取扱店にお申しつけください。

セッティング表

リヤショックアブソーバスプリング初期荷重のセッティング

	柔らかめの設定	**標準**	硬めの設定
アジャスタ位置：	1段	**2段**	5段
スプリングの作用	弱い	←→	強い
設定	柔らかい	←→	硬い
荷重	軽い	←→	重い
路面	良好	←→	悪路
速度	低速	←→	高速

燃料の補給

ガソリンの補給

⚠ 警告

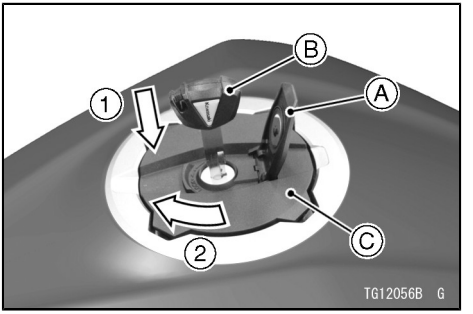
燃料は非常に引火性が強く、一定の条件下では火災や爆発の可能性があります。燃料を取り扱うときあるいは、給油するときは必ずエンジンを止め、火気厳禁で行ってください。

- **タバコを吸うなど火気を近づけないでください。**
- **ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。**
- **給油は必ず風通しのよい屋外で行ってください。**

身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火する場合があります。次のことは必ず守ってください。

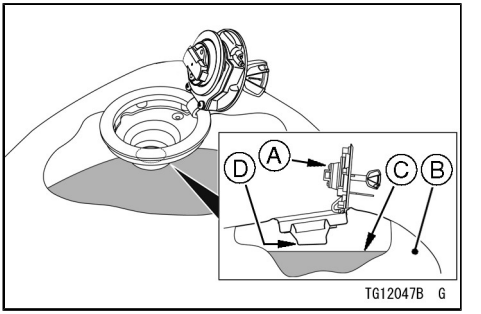
- **タンクキャップを開ける前に車体または、給油機等の金属部分に触れて身体の静電気除去を行ってください。**
- **ガソリンまたは燃料がこぼれた場合は、布などで完全に拭きとってください。**
- **タンクキャップを開けるなど、給油機の操作は必ず、静電気の除去を行った人お1人で行ってください。**
- **給油口に他の人を近づけないでください。**

- キーホールカバーを引き上げます。
- 燃料タンクキャップのロックにイグニションキーを差し込み、燃料タンクキャップを軽く押しながらイグニションキーを時計回りに回します。



A. キーホールカバー
B. イグニションキー
C. 燃料タンクキャップ

- タンクキャップを開けます。
- 燃料を給油します。燃料は注入口にあるレベルプレートの下端以上入れず、図のように少し控え目に入れてください。



A. 燃料タンクキャップ
B. 燃料タンク
C. トップレベル
D. レベルプレートの下端

タンク容量：14 L

使用燃料：無鉛レギュラガソリン

注意

- **必ず無鉛レギュラガソリンを使用してください。燃料を補給するときは、必ず無鉛レギュラガソリンであることを確認してから行ってください。**
- **高濃度アルコール燃料を使用しないでください。高濃度アルコール燃料を使用すると、エンジンや燃料系の部品を損傷させる原因となります。**
- **粗悪ガソリンまたは燃料に不適切な添加剤を使用しないでください。粗悪ガソリンまたは不適切な添加剤を使用すると、エンジンに悪影響を及ぼす可能性があります。**

- タンクキャップを閉じるときは、イグニションキーをキャップに差し込んだ状態で、キャップを手で押し下げます。
- キーを"LOCK"の位置に回して抜きます。
- キーホールカバーを閉めます。
- サイドスタンド状態においては燃料計は燃料量を正確に表示しません。車体を正立状態にして、燃料量の確認を行ってください。

アドバイス

○ タンクキャップはイグニションキーを差し込んでいないとロックできません。また、キャップが確実にロックされていないとキーは抜けません。

⚠ 警告

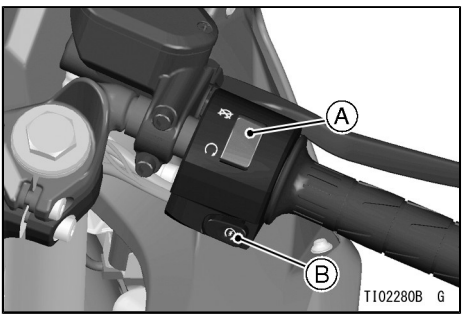
燃料は非常に引火性が強く、一定の条件下では火災や爆発の可能性があります。燃料を取り扱うときあるいは、給油するときは必ずエンジンを止め、火気厳禁で行ってください。

- **燃料タンクに燃料を入れすぎると、走行中燃料が膨張してタンクキャップのブリーザホースからにじみ出ることがあります。燃料は入れすぎないでください。**
- **タンクキャップは確実に閉めてください。**
- **燃料がこぼれた場合は、ただちに布などで完全に拭きとってください。**

正しい運転操作

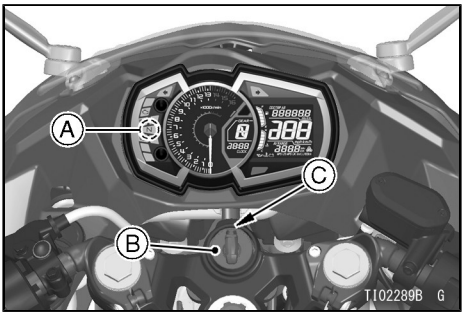
エンジンのかけ方

- エンジンストップスイッチが の位置になっているか確認します。



A. エンジンストップスイッチ
B. スタータボタン

- イグニションスイッチをオンにします。
- トランスミッションをニュートラルにします。ニュートラルに入っているかどうかニュートラルインジケータで確認します。



A. ニュートラルインジケータ
B. イグニションスイッチ
C. オン

- メータの初期動作が終了したのち、スロットルグリップを動かさずに、

クラッチレバーを握り、スタータボタンを押してエンジンを始動させます。

アドバイス

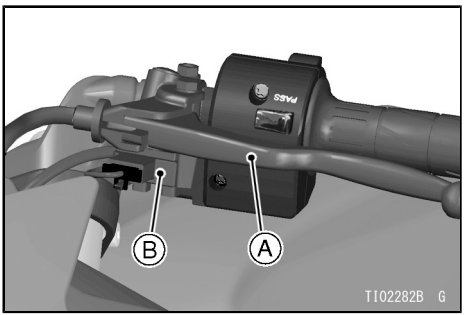
○ この車には、転倒した際に自動的にエンジンを停止させるための転倒センサを採用しています。再度エンジンを始動させるには車体を垂直に起こした後、一旦イグニションスイッチをオフにして、それから再度イグニションスイッチをオンにします。

⚠ 危険

排気ガスには、無色無臭の有毒ガスである一酸化炭素が含まれています。排気ガスを吸い込むと、意識不明になったり、死亡する可能性があります。閉め切った場所でエンジンを運転しないでください。換気の良い場所で作業してください。

アドバイス

○ スタータロックアウトシステムにより、サイドスタンドが降りている時は、ニュートラル以外でエンジンは始動できません。



A. クラッチレバー
B. スタータロックアウトスイッチ

アドバイス

○ スタータボタンを押して5秒以内でエンジンが始動しない時は、一旦イグニションスイッチをオフにし、10秒くらい休

んでから再度イグニションスイッチをオンにしてスタータボタンを押してください。これはバッテリ電圧を回復させるためです。
○ 不必要な空吹かしはしないでください。燃料の無駄使いになるばかりでなく、エンジンに悪影響を及ぼします。
○ アイドリング状態で長時間放置すると、充電不良を起こし、バッテリに悪影響を及ぼします。

ならし運転

最初の1 000 kmを走行するまでは下表のエンジン回転速度以下でならし運転をしてください。ならし運転を行うと、車の性能を維持し寿命を延ばします。

走行距離	エンジン回転速度
0 ~ 200 km	4 000 rpm
200 ~ 350 km	6 000 rpm
350 ~ 1 000 km	控えめな運転

アドバイス

○ 必要に応じて一時的に制限回転速度を超えることは問題ありません。
○ 不必要な空吹かし、急加速、急減速はつつしんでください。
○ 法定速度を守って走行してください。

走り方

● サイドスタンドが完全に戻っているかを確認します。

アドバイス

○ サイドスタンドが降りたままギヤを入れると、サイドスタンドスイッチとスタータロックアウトスイッチが働いて、自動的にエンジンが止まります。
○ サイドスタンドが滑らかに作動しない時は取り付け部に注油を行い、滑らかに作動するか確認してください。

⚠ 警告

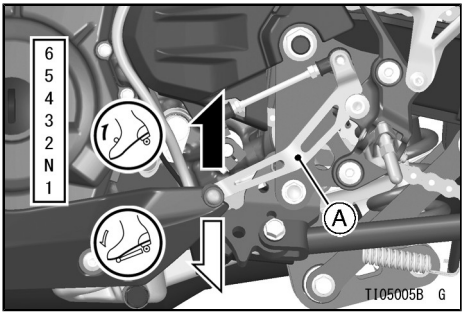
走行中はサイドスタンドを操作しないでください。走行中にサイドスタンドを操作するとエンジンが止まり、思わぬ事故の原因となることがあります。

- クラッチレバーを握り、シフトペダルを操作してギヤを１速に入れ、静かに発進します。

アドバイス

○ 車が静止状態の時は、ニュートラルから1速にしか入りません。

- 車のスピードに応じてギヤチェンジをします。ギヤチェンジは６段リターン式です。



A. シフトペダル

アドバイス

○ ギヤチェンジは、スロットルグリップを一旦戻し、クラッチレバーを完全に握ってから行ってください。
○ チェンジ操作は、ペダルにコツンと感じるまで確実に行ってください。
○ チェンジ操作が堅く感じられる時は、カワサキ正規取扱店にご相談ください。

○ 不必要な急加減速をつつしんで走ることが、燃料の節約と車の寿命を延ばします。

注意

- **無理なチェンジ操作やシフトペダルに足を乗せたままでの走行は、チェンジ機構やクラッチを傷める原因となります。**
- **走行中に異常を感じたときは、ただちにカワサキ正規取扱店で点検をお受けください。**

シフトダウンの仕方

追い越しするとき等強力な加速が必要な時は、シフトダウン（低速ギヤにチェンジ）をすると加速力が得られます。あまり高い速度で行うとエンジンの回転が上がりすぎて、エンジン、ミッションに悪影響を及ぼします。各ギヤ共、5 000 rpm以下で行ってください。

⚠ 警告

急激なシフトダウンは、走行安定性をそこない転倒等の原因となりますので行わないでください。

ブレーキの使い方

- ブレーキは前後輪同時に使用してください。

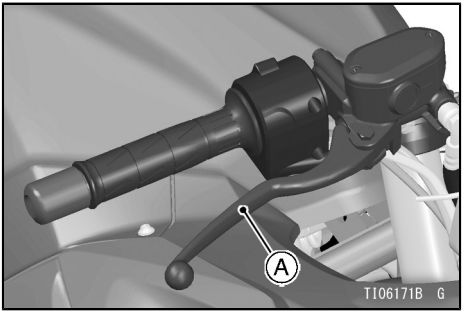
⚠ 警告

前輪または後輪ブレーキだけを使うと、走行安定性をそこない横すべりや転倒の原因となる場合があります。必ず前後ブレーキを同時にかけてください。

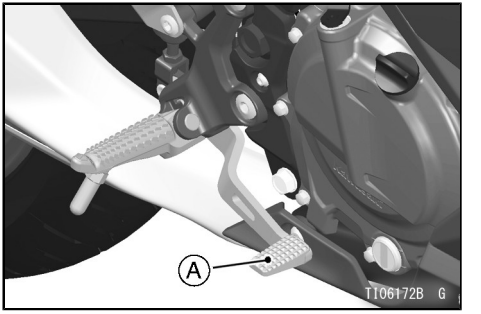
- 不必要な急ブレーキはかけないでください。

⚠ 警告

急ブレーキをかけると、走行安定性をそこない横すべりや転倒の原因となる場合があります。不必要な急ブレーキは行わないでください。



A. フロントブレーキレバー



A. リヤブレーキペダル

アドバイス

- 雨の日や路面が濡れているところ、雪道や凍った道路では路面が滑りやすく、晴天時よりも制動距離が長くなります。スピードを落として、余裕をもって運転してください。
- 長い坂道を下る時等に連続してブレーキを使用すると、ブレーキ部の温度が上昇しブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。このようなときはエンジ

ンブレーキと断続的なブレーキ操作を併用してください。

- **雨の日や水たまりを走行した後は、ブレーキの効きが悪くなる場合があります。ブレーキの効きが悪い時は、周囲の交通状況に充分注意して低速で走行しながら、ブレーキの効きが回復するまでブレーキを軽く作動させて、ブレーキの湿りを乾燥させてください。**

エンジンブレーキ

走行中、スロットルグリップを戻した時にかかる制動力です。低速ギヤほどエンジンブレーキはよく効きます。

ABS

ABS（アンチロックブレーキシステム）は、直線走行中に急ブレーキをかけたとき、車輪がロックしないように設計されています。ABSはブレーキ力を自動的に制御します。グリップ力とブレーキ力を断続的に得ることによって、車輪がロックすることを防ぎ、車が停止するまで運転者が安定したハンドル操作をできるようにします。

ブレーキの操作は通常の車と同じです。前輪ブレーキはブレーキレバーで、後輪ブレーキはブレーキペダルでかけます。

ABSは車輪のロックを防いで車を安全に停止させますが、次のような特徴がありますので注意してください。

- ABSは悪い路面、誤った判断、または間違ったブレーキのかけ方を良い方向に補うことはできません。ABSがついていない車と同じような注意が必要です。
- ABSは停止距離を縮めるようには設計されていません。すべりやすい、凹凸が多い、あるいは下りの道路などでは、ABS搭載の車の方が搭載されていない車より停止距離が長くなる場合があります。このようなところを走行するときは特に注意してください。

● ABSは直線走行中にブレーキをかけたとき車輪がロックすることを防ぐのに役立ちます。しかし、コーナリング中にブレーキをかけたときに起こる車輪の横すべりをコントロールすることはできません。コーナリング中のブレーキはかけない方が安全です。もしかける必要がある場合は、前後輪共、軽くかけるだけにします。

アドバイス

○ コーナに入る前にシフトダウンをして、充分に減速してください。

● ABSに組み込まれているコンピュータは、車の走行速度と車輪の回転速度を比べています。指定サイズ以外のタイヤは車輪の回転速度を変え、コンピュータを誤作動させて停止距離を長くすることがあります。

⚠ 警告

指定外のタイヤを使用するとABSが誤作動を起こし、停止距離が長くなって事故につながる可能性があります。必ず指定されたタイヤを使用してください。

⚠ 警告

ABSシステムの機能には限界があり、あらゆる状況下で運転者を補助するものではありません。天候、路面状況、交通事情にふさわしいスピードと方法で運転し、安全を確保することは運転者の責任です。

アドバイス

○ ABSの作動中に、ブレーキレバーやペダルに振動を感じることがあります。これは異常ではありませんので、ブレーキをかけているのを中断する必要はありません。

○ バッテリが上がっている場合も、ABSは作動しません。
○ 以下の車速ではABSは作動しません。

約10 km/h以下

エンジンの止め方

- スロットルグリップを全閉にします。
- トランスミッションをニュートラルにします。
- イグニションスイッチをオフにします。

エンジンの非常停止

何らかの原因で、エンジンがスロットルコントロールを失うと非常に危険な状態に陥ることがあります。このような非常時において、イグニションスイッチで停止できないときはエンジンストップスイッチを ⊠ の位置にしてください。ハンドルから手をはなさずにエンジンを停止することができます。

駐車の仕方

⚠ 警告

可燃物近くでの運転、駐車は、火災の原因となる可能性があります。背の高い植物、枯れ木、枯れ葉、等の可燃物がマフラ等の排気系部品に触れるような場所で、アイドリングしたり駐車したりしないでください。

⚠ 警告

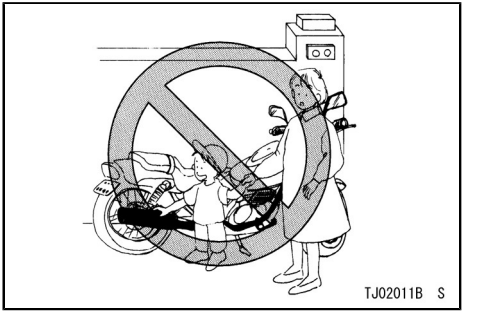
エンジンや排気系統は運転中や停止後しばらくの間は高温のため、やけどをおこす可能性があります。
- **エンジンや排気系統には触れないでください。**
- **駐車するときは交通の邪魔にならない、安全な場所で他の方がマフラ、エンジンに触れることのない場所に駐車してください。**

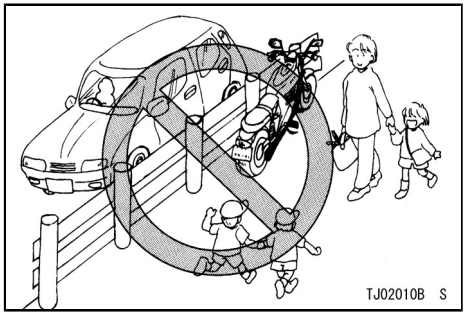
- 車を止め、トランスミッションをニュートラルにします。
- イグニションスイッチをオフにしてエンジンを停止させます。
- サイドスタンドを使って、水平でしっかりとした場所に駐車します。

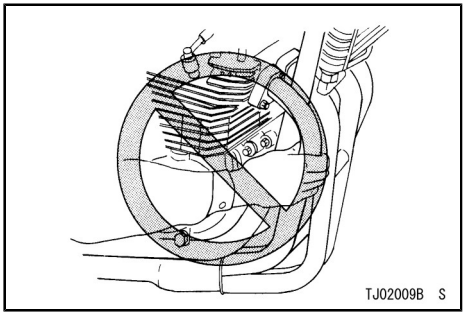
⚠ 警告

坂道、砂利道や凸凹な所に駐車すると、スタンドが不安定になり転倒する可能性があります。車が安定するところに駐車してください。

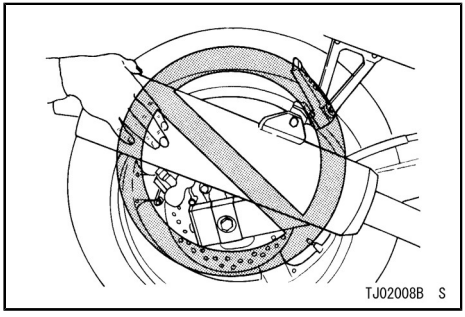
- 交通の邪魔にならない安全な場所に駐車してください。







- エンジン回転中や停止後しばらくの間は、マフラ、エンジンに触れないでください。
- マフラ、エンジンが熱くなっています。他の方が触れることのない場所に駐車してください。やむをえず子供が遊ぶ施設や人通りの多いところに駐車するときは他の方がマフラ、エンジンに触れないように配慮してください。



- ガレージまたはその他の建物の内部に駐車する時は、風通しが良く、火気のない所にします。

⚠ 警告

ガソリンは引火性が高く火災の原因になることがあります。ガソリンを取り扱うとき、あるいは燃料を給油するときは必ずエンジンを止め、火気厳禁で行ってください。

- ステアリングをロックします。盗難防止のため、**車から離れるときは必ずステアリングをロックし、キーを抜いてお持ちください。**

点検整備について

法令で定められた点検整備

お車を安全かつ快適にご使用いただくため、法令により日常点検と定期点検整備を行うことが義務付けられています。必ず実施してください。

1. 日常点検

走行距離や運行時の状態などから判断した適切な時期に実施する点検です。

2. 定期点検整備

車を使用する人自身の責任において定期的に行う点検整備です。
二輪車については1年点検と2年点検があります。
なお、詳細についてはメンテナンスノートをご覧ください。

カワサキが指定する点検整備（メーカ指定点検整備）

- **1か月目（または1 000 km）点検整備**
  登録日から1か月目または1 000 km走行時点に行う点検です。
  お買いあげいただいたカワサキ正規取扱店にてお受けください。
- **メーカ指定点検整備**
  法令で定められた定期点検整備項目のほかに、カワサキが指定する定期点検整備項目があります。所定の時期になりましたら、法令で定められた定期点検整備と同時に実施してください。
  なお、点検整備の詳細についてはメンテナンスノートの「お車を安全、快適にご使用いただくために」をご覧ください。

簡単な整備

ここでは、点検の結果、清掃、調整、交換等の整備が必要となった場合、通常行われることの多い代表例について、その整備の実施方法を述べています。

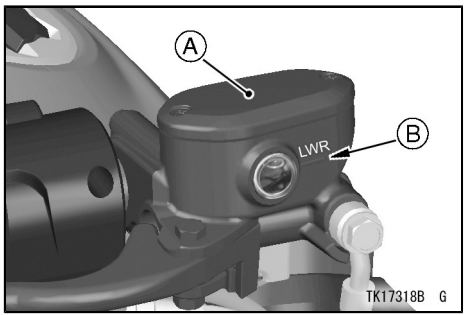
⚠ 警告

整備は安全のためご自身の知識、技量の範囲内で行ってください。難しいと思われる内容、あるいは整備後に何か不審を感じられた場合はカワサキ正規取扱店にご相談ください。整備を行うときは、安全に充分注意してください。

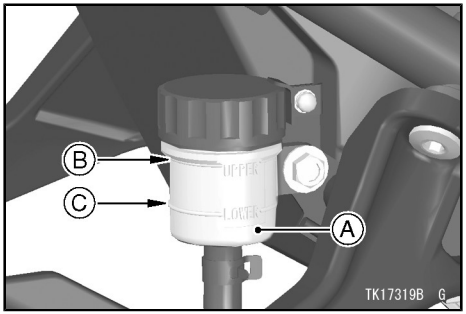
- **場所は、平坦で足場のしっかりした所を選び、スタンドを立てて行ってください。**
- **エンジンを停止し、イグニションキーを抜いた状態で行ってください。**
- **排気ガスには有害な一酸化炭素等の成分が含まれています。エンジンをかけた状態で点検整備を行うときは、通気性の良い場所で行ってください。**
- **エンジンの運転時や停止後しばらくの間は、マフラ、エンジン、ラジエータ等が熱くなっています。触れてやけどをしないようにしてください。**
- **適切な工具を使用してください。もし、不適切な工具を使用して整備作業を行うとけがをする可能性があります。**

ブレーキ液量の点検

- 平坦な場所で車を垂直にし、リザーバを水平にします。
- リザーバ内のブレーキ液量がロア（LOWER）レベル以上あるかを点検します。



A. フロントブレーキリザーバ
B. ロア（LOWER）レベルライン



A. リヤブレーキリザーバ
B. アッパ（UPPER）レベルライン
C. ロア（LOWER）レベルライン

アドバイス

○ もし液面がロア（LOWER）レベル以下の場合は、カワサキ正規取扱店にご相談ください。

⚠ 警告

- **液面はブレーキパッドの摩耗と共に下がってきますが、ブレーキ液が早く減少する場合、ブレーキ系統からの液漏れが考えられます。重大な事故につながる可能性がありますので、カワサキ正規取扱店で点検をお受けください。**
- **ブレーキ液は安全のため、2年毎の交換をおすすめします。**

⚠ 警告

リザーバキャップを取り外す前に清掃する。密閉された容器に入ったDOT4ブレーキ液を使用すること。

注意

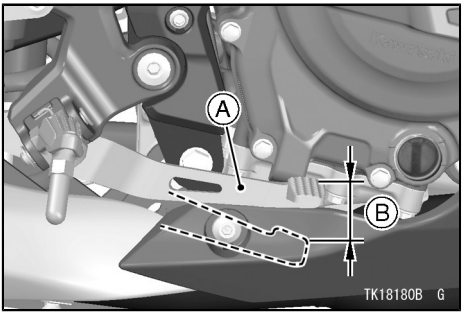
- **ブレーキ液を混用すると変質するので、銘柄の異なるブレーキ液を使用しないでください。**
- **ブレーキ液は塗装をいためますので、部品類に付着させないでください。もし付着したら、すぐに洗い流してください。**

ブレーキライトスイッチの調整

ブレーキペダルを踏み込んだ時に、適正な踏み込み量になると、リヤブレーキライトが点灯します。

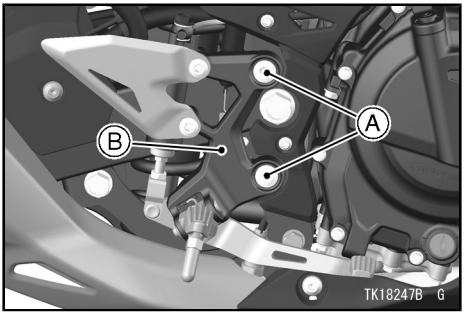
[踏み込み量]

標準値: 約10 mm



A. ブレーキペダル
B. 踏み込み量

- 右フロントステップブラケットボルトを取り外します。
- 右フロントステップブラケットを少し外側へ引き出します。

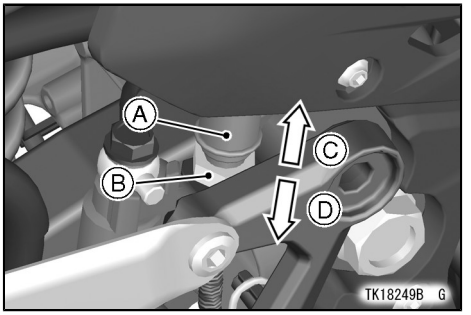


A. 右フロントステップブラケットボルト
B. 右フロントステップブラケット

- スイッチを指で押さえ、調整ナットを回して調整します。

アドバイス

○ スイッチの取り付け位置が高くなれば早く点灯し、低くなれば遅く点灯します。



A. リヤブレーキライトスイッチ
B. 調整ナット
C. 早く点灯
D. 遅く点灯

注意

リヤブレーキライトスイッチを調整する際、配線を損傷させないためにスイッチ本体を回さないようにしてください。

- 右フロントステップブラケットを取り付けます。
- 右フロントステップブラケットボルトを規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク

フロントステップブラケットボルト：
25 N·m (2.5 kgf·m)

アドバイス

○ トルクレンチがない場合は、カワサキ正規取扱店にご相談ください。

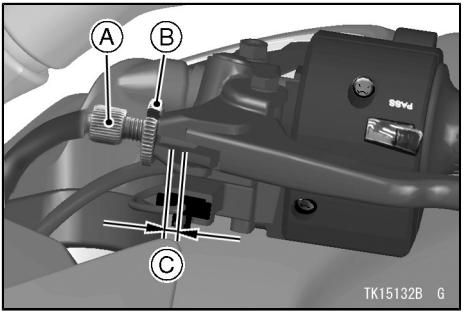
- フロントブレーキをかけた時もブレーキライトが点灯するか点検します。もし異常があれば、カワサキ正規取扱店で点検をお受けください。

クラッチレバーの遊びの調整

クラッチレバーを手で抵抗を感じるまで引き、クラッチレバーとレバーホルダとの間に遊びがあるのが適正です。

［クラッチレバーの遊び］

標準値：　2 ~ 3 mm



A. アジャスタ
B. ロックナット
C. 遊び

- 調整は、クラッチレバー側のロックナットをゆるめアジャスタを回して行います。
- 調整ができない場合は、カワサキ正規取扱店にご相談ください。

⚠ 警告

- **クラッチケーブルの遊びが大きすぎるとクラッチが切れなくなり、負傷や死亡事故につながる可能性があります。**
- **クラッチケーブルを調整するときは、停車中に行い、アウターケーブルの上端がアジャスタ穴に正しく取り付けられている事を確認してください。**

アドバイス

○ 調整後にエンジンをかけ、チェンジ操作がスムーズであるか、エンストまたは飛び出しがないかを確認します。
○ 1か月に1度はクラッチケーブルの取り付け部に注油を行ってください。

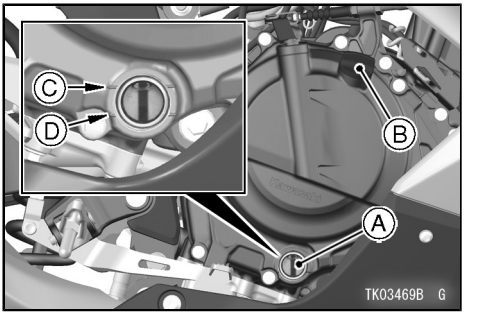
エンジンオイルの補給

- 平坦な場所で、エンジンを2 ~ 3分間アイドリング運転で暖機し、エンジンを停止します。

アドバイス

○ 走行直後でエンジンが充分に暖機していればアイドリング運転は不要です。

- 車体を垂直にし、エンジンを停止して2～3分後に、オイル量がオイルレベル点検窓のアッパレベルとロアレベルの間にあることを確認します。
- もしオイルが多いときは、スポイトや適切な器具を使用してオイルを排出します。
- オイル量がロアレベルに近ければ、オイル注油口キャップを取り外し、オイルレベル点検窓で確認しながらアッパレベルとロアレベルの間まで、エンジンオイルを補給します。
- オイル注油口キャップを確実に取り付けます。



A. オイルレベル点検窓
B. オイル注油口キャップ
C. アッパレベル
D. ロアレベル

＜推奨オイル＞

カワサキ純正4サイクルオイル

R4 SJ 10W-40 JASO MA

S4 SG 10W-40 JASO MA

または

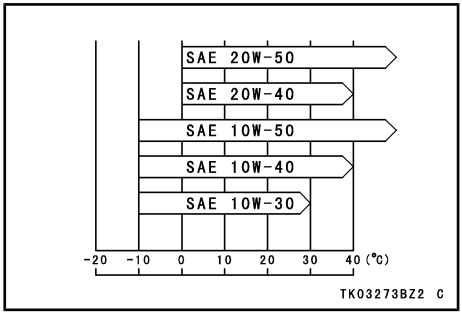
API SG、SH、SJ、SLまたはSM（JASO MA、MA1またはMA2適合品）

SAE 10W-40

アドバイス

○ クラッチの滑りやエンジンの性能、耐久性に悪影響を与えることがあるので、エンジンオイルに摩擦を低減させる添加物は加えないでください。

エンジンオイルの粘度は、次の図を参考にして使用する地域の外気温によって使いわけてください。なお、前述の推奨オイルと同じAPI分類とSAE規格のエンジンオイルでも、それぞれオイルの特性等が微妙に異なっているため、この車には適合しない場合があります。



交換時期は“走行キロ毎交換”と“年（月）毎交換”のどちらか早い方で実施してください。

＜エンジンオイル交換時期＞

初回：	1 000 km時	または	1か月時
2回目：	6 000 km時	または	1年時
以後：	6 000 km毎	または	1年毎

[エンジンオイル量]

ｵｲﾙﾌｨﾙﾀを取り外していない時	1.3L
ｵｲﾙﾌｨﾙﾀを取り外した時	1.7L

<オイルフィルタ交換時期>

初回： 1 000 km時 または 1か月時

2回目： 18 000 km時

以後： 18 000 km毎

アドバイス

○ 補給するときには、オイル注油口からゴミ等が入らないようにしてください。

○ オイル量は、規定範囲の上限(アッパレベル)を超えないようにしてください。

⚠ 警告

エンジンや排気系統は運転中や停止後しばらくの間は高温のため、やけどをおこす可能性があります。

- **エンジンや排気系統には触れないでください。**
- **オイルをこぼしたときは、完全に拭きとってください。**

注意

- **銘柄や等級の違うオイルを混用したり、低品質のオイルを使用すると変質してエンジンの故障の原因になることがあります。同一銘柄、等級の良品質オイルを使用してください。銘柄、等級が不明の場合はオイル全てを交換してください。**

アドバイス

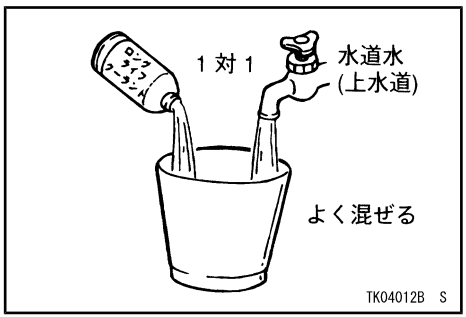
○ 油脂類の廃液は法令で適切な処理を行うことが義務づけられていますの

で、カワサキ正規取扱店にご相談ください。

冷却液

冷却液の作り方

カワサキ純正ロングライフクーラントと水道水（上水道）を1：1に混ぜ合わせます。



⚠ 警告

冷却液には毒性があります。取り扱いには充分注意してください。

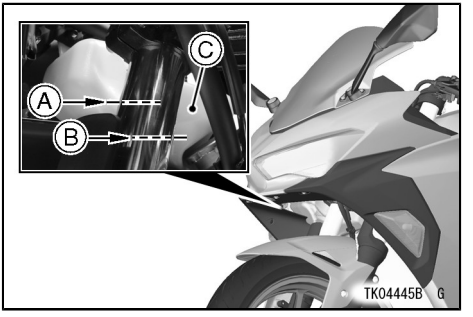
- **皮膚や衣類についた場合**
  すみやかに水で洗ってから、石けん水で洗ってください。
- **目に入った場合**
  水で充分洗い流してから、医師の診察を受けてください。
- **飲んだ場合**
  直ちにおう吐させ、医師の診察を受けてください。

注意

冷却液に混合または補充する水は水道水（上水道）を使用してください。井戸水や塩分を含む天然水はエンジンの損傷につながるので使用しないでください。

冷却液の点検

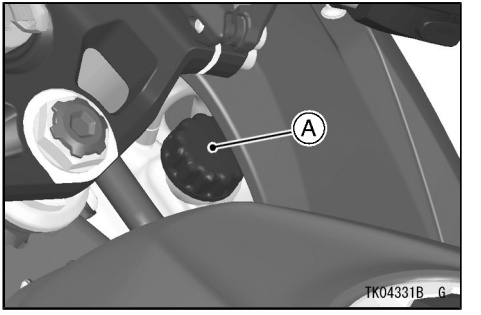
- 車体を地面と垂直に保持します。
- エンジンが冷えている時に、右ミドルカウリングにあるリザーブタンク内の冷却液の量を点検します。液面が**L**（下限）マークラインより下がっている場合は、冷却液を補給します。



A. **F**（上限）マークライン
B. **L**（下限）マークライン
C. リザーブタンク

冷却液の補給

- リザーブタンクのキャップをはずし、タンクの**F**（上限）マークラインと**L**（下限）マークラインの間まで冷却液を補給します。



A. リザーブタンクキャップ

アドバイス

○ 冷却液はF（上限）マークラインを超えて補給しないでください。

注意

冷却液の減り具合が著しいときは、ラジエータ本体、エンジン内部、ホースなどからの液漏れが考えられますので、カワサキ正規取扱店で点検をお受けください。冷却液の交換は、カワサキ正規取扱店にご相談ください。

- リザーブタンクにリザーブタンクキャップを取り付けます。

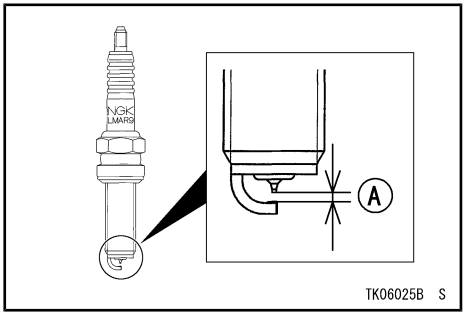
スパークプラグ

スパークプラグは以下の通りです。

標準プラグ	SILMAR9B9
プラグギャップ	0.8 ~ 0.9 mm

締め付けトルク

スパークプラグ : 13 N·m (1.3 kgf·m)



A. プラグギャップ

注意

スパークプラグを交換するときは、指定スパークプラグ以外は使用しないでください。エンジン故障の原因となります。

アドバイス

○ スパークプラグの取り外しおよび取り付けは、カワサキ正規取扱店にご相談ください。

エアクリーナ

エアクリーナエレメントが詰まると吸入空気量が不足し、燃料消費量増加、出力低下、プラグかぶり等の原因になります。

アドバイス

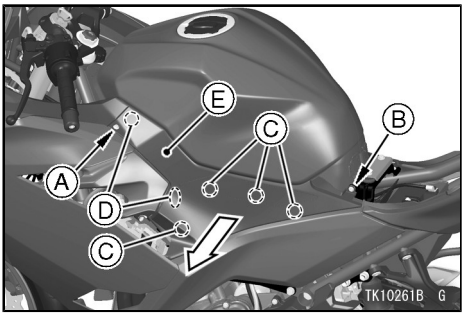
○ 著しくほこり等の多い場所を走行した場合は、定期点検期間よりお早めに点検を行ってください。

エレメントの交換

エレメントの交換は、カワサキ正規取扱店にご相談ください。

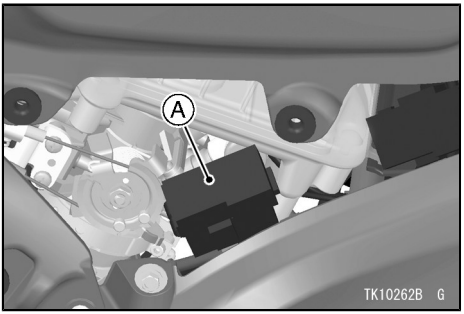
オイルの排出

- 運転者用シートを取り外します(50ページを参照)。
- ボルトとワッシャを取り外します。
- ボルトを取り外します。
- 左サイドカバーを外側に引いて、突起部とタブをはずします。
- 左サイドカバーを取り外します。



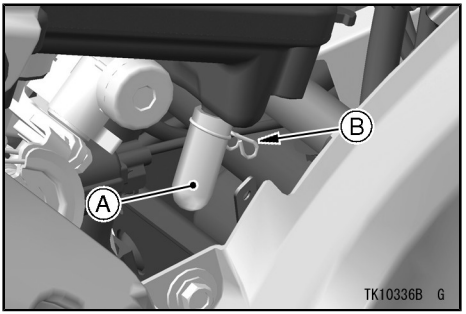
A. ボルトとワッシャ
B. ボルト
C. 突起部
D. タブ
E. 左サイドカバー

- ヒューズボックスをブラケットから取り外します。



A. ヒューズボックス

- エアクリーナハウジングの左下にあるキャップに、エアクリーナハウジングからの水やオイルがたまっていないか点検します。



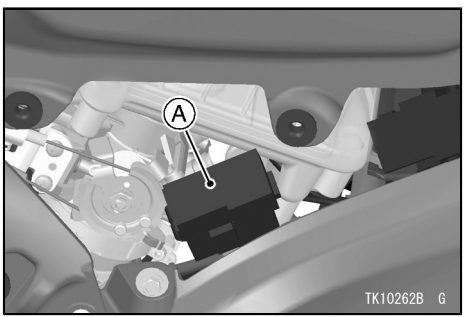
A. ドレンキャップ
B. クランプ

- キャップに水やオイルがたまっている場合は、キャップをはずして排出します。
- 排出後、キャップは必ず元通りに取り付けます。

⚠ 警告

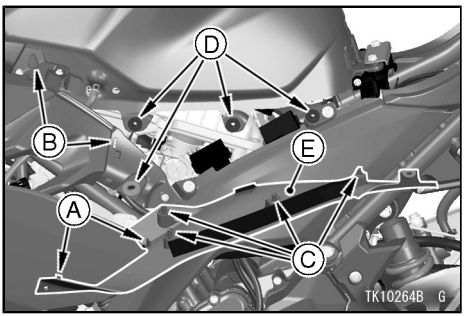
ドレンキャップからオイルが漏れるとタイヤに付着し、タイヤが滑りやすくなり負傷や死亡事故につながる危険性があります。キャップは必ずしっかりと取り付けてください。

- ヒューズボックスをブラケットに取り付けます。



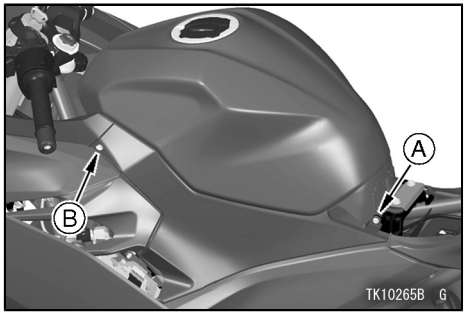
A. ヒューズボックス

- 左サイドカバーのタブをスロットに差し込みます。
- 左サイドカバーの突起部をグロメットに差し込みます。



A. タブ
B. スロット
C. 突起部
D. グロメット
E. 左サイドカバー

- ボルトを締め付ける。
- ボルトとワッシャを締め付ける。



A. ボルト
B. ボルトとワッシャ

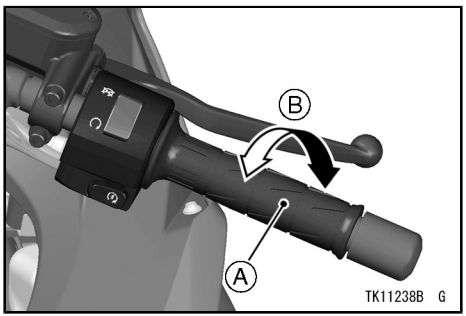
● 取り外した部品を取り付けます。

スロットルケーブル遊びの点検

ケーブルがたるんでいると、スロットルの開度に対してエンジンレスポンスが遅れます。また、ケーブルが張りすぎていると、グリップに遊びがなくなり、操作しにくくなります。

スロットルグリップに遊びがあるのが適正です。もし、スロットルグリップの遊びが適正でない場合は、スロットルケーブルを調整します。

[スロットルグリップの遊び]
標準値: 2 ~ 3 mm

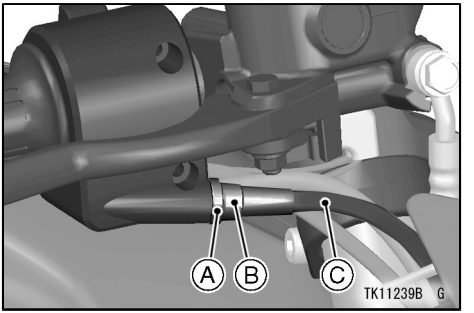


A. スロットルグリップ
B. 遊び

調整

● ロックナットをゆるめます。

- アジャスタを回して調整します。
- ロックナットを締め付けます。



A. ロックナット
B. アジャスタ
C. スロットルケーブル（開け側）

グリップ側のアジャスタで調整できない場合は、カワサキ正規取扱店にご相談ください。

アイドリング回転速度の調整

この車にはアイドルスピードコントロールバルブが装備されている為、アイドル回転速度の調整は不要です。暖機運転時以外でアイドル回転速度が標準値範囲外にあるときは、カワサキ正規取扱店にご相談ください。

アドバイス

○ エンジン冷間時にはファーストアイドル機構が自動的に働き、エンジン回転速度が高くなります。

［アイドリング回転速度］

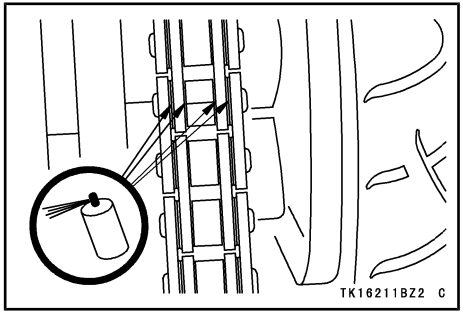
標準値： 1 250 ~ 1 350 rpm

ドライブチェーン

給油

- 後輪を浮かした状態で、後輪を手でゆっくり回しながら、チェーンやスプロケットに付着した泥、汚れを柔

らかいブラシ等で落とし、カワサキ純正チェーンクリーナを使用して洗浄します。
- 乾燥後、後輪を手でゆっくり回しながら給油を行います。オイルがチェーン各部によく行きわたるようにチェーンローラの両側に給油してください。



注意

- **オイルは、カワサキ純正チェーンオイルを使用してください。**
- **この車のチェーンは、ゴムシールを使用しています。ゴムシールの損傷を防ぐためスチーム洗浄は行わないでください。**
- **シンナ、ガソリン等の揮発性溶剤、ワイヤブラシを使用しての洗浄はしないでください。ゴムシールが損傷します。**

アドバイス

○ 雨天走行後、あるいは洗車後も給油してください。

- 給油後、余分なオイルは拭きとります。

たるみ点検

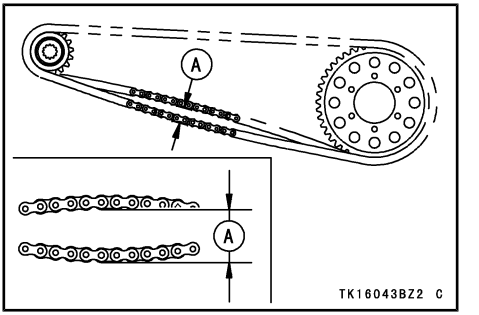
アドバイス

○ チェーンが汚れていたり、乾いている場合は、洗浄および給油します。

- サイドスタンドを立てます。
- 後輪を回し、チェーンの張りが最も強くなる位置で、前後のスプロケットの中間部で垂直の動き（チェーンのたるみ）を測定します。標準値外の場合は、調整してください。

[ドライブチェーンのたるみ]

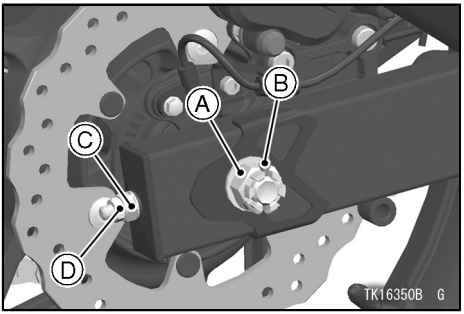
標準値： **20 ~ 30 mm**



A. たるみ

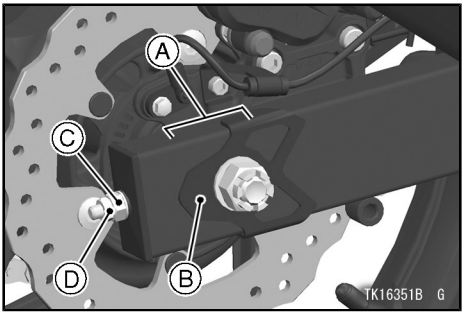
たるみ調整

- 左右のチェーンアジャスタロックナットをゆるめます。
- リヤアクスルナットから割りピンを取り外し、リヤアクスルナットをゆるめます。



A. リヤアクスルナット
B. 割りピン
C. チェーンアジャスタ
D. チェーンアジャスタロックナット

- チェーンアジャスタを回して、たるみを標準値にします。
- ホイールアライメントインジケータとスイングアームの目盛りを左右同じ位置に合わせます。



A. 目盛り
B. インジケータ
C. チェーンアジャスタ
D. チェーンアジャスタロックナット

⚠ 警告

左右のアライメントインジケータの位置がずれていると、チェーンやスプロケットが異常に摩耗したり、走行安定性を失い事故につながる可能性があります。アライメントインジケータの調整位置は左右等しくしてください。

- 左右のチェーンアジャスタロックナットを締め付けます。
- リヤアクスルナットを規定のトルクで締め付けます。

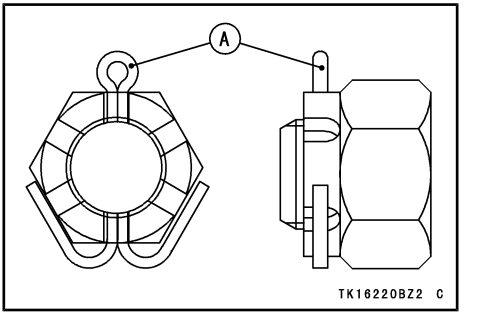
締め付けトルク

リヤアクスルナット：98 N·m (10 kgf·m)

アドバイス

○ トルクレンチがない場合は、カワサキ正規取扱店にご相談ください。

- 後輪を回し、たるみの最も少ない位置で再度たるみを点検します。必要があれば再調整します。
- リヤアクスルシャフトとアクスルナットに新しい割りピンを通します。そして割りピンの両端を折り曲げます。

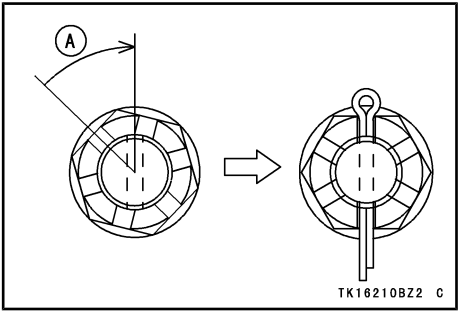


A. 割りピン

アドバイス

○ 割りピンを差し込むときに、アクスルシャフトの穴とアクスルの穴が一致し

ない場合は、アクスルナットを時計方向（締め付け方向）に回します。
- 締め付け角度は30度以内にしてください。
- 最も近い穴が過ぎた時は、ナットを一度ゆるめてから再度締め付けてください。



A. 時計方向に回す

⚠ 警告

アクスルナットの取り付け不良は走行安定性を失う可能性があり、負傷や死亡事故につながる可能性があります。規定トルクでアクスルナットを締め付け、割りピンを確実に取り付けてください。

- リヤブレーキの効き具合を点検します。

タイヤ

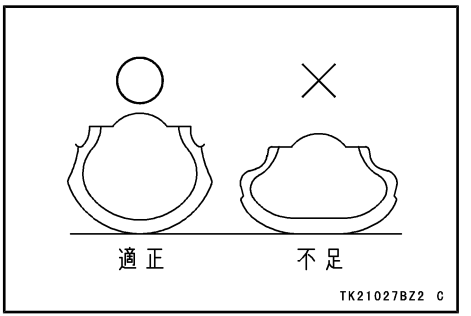
車を安全に運転するには、タイヤを良い状態に保つことが重要です。

⚠ 警告

空気圧が適正でなかったり、タイヤに亀裂や、損傷、異常摩耗があるとハンドルをとられたり、パンクの原因になります。

空気圧

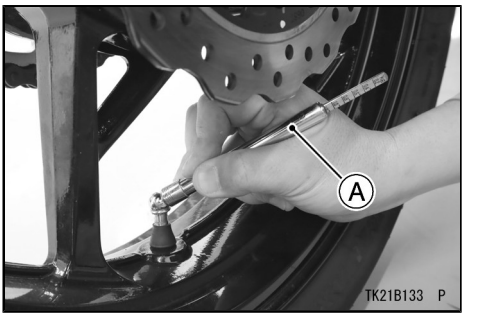
常に適正な空気圧を保ってください。タイヤの空気圧は、走行前のタイヤが冷えている時に、タイヤの接地部のたわみ状態により空気圧が適正であるかを点検します。



アドバイス

○ タイヤの空気圧は徐々に低下します。また、タイヤによっては空気圧不足が見た目では分かりにくいものもあるため、少なくとも1か月に一度はタイヤゲージを使用して空気圧の点検を行ってください。

○ 走行後のタイヤが温まっている状態ではタイヤの空気圧は高くなることがありますので、必ず冷えた状態で点検してください。

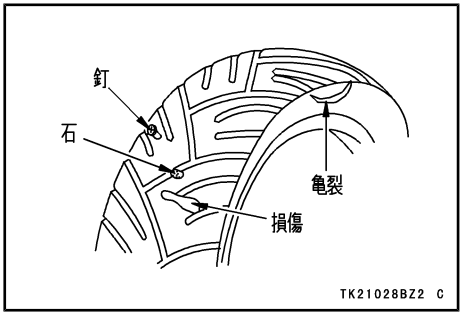


A. タイヤゲージ

		前輪	後輪
タイヤ空気圧		200 kPa (2.00 kgf/cm²)	225 kPa (2.25 kgf/cm²)
タイヤサイズ		110/70-17 M/C 54H	140/70-17 M/C 66H
指定タイヤ	ダンロップ	ARROWMAX GT601F J	ARROWMAX GT601 J

亀裂と損傷

タイヤの全周に著しい亀裂や損傷がないか点検します。また、タイヤの全周にわたり、釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを点検します。



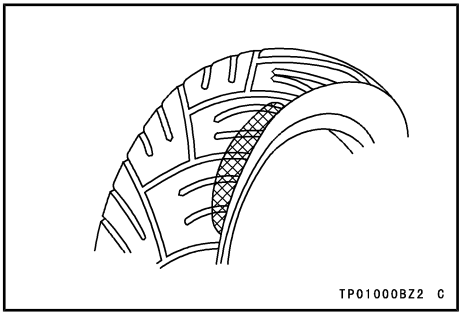
アドバイス

○ 道路の縁石等にタイヤ側面を接触させたり、大きな凹みや突起物を乗り越した時は、必ず点検してください。

異常な摩耗

タイヤの接地面が異常に摩耗していないかを点検します。

タイヤが異常に摩耗しているときは、カワサキ正規取扱店にご相談ください。



溝の深さ

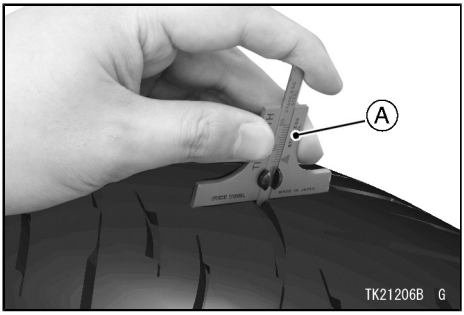
コーナリング、操縦安定性、さらに安全走行のため、二輪車のタイヤは溝の深さが規定以下になりましたら交換をおすすめします。

タイヤの交換は、カワサキ正規取扱店にご相談ください。

[溝の深さ]

前輪: 1 mm

後輪: 2 mm



A. デプスゲージ

⚠ 警告

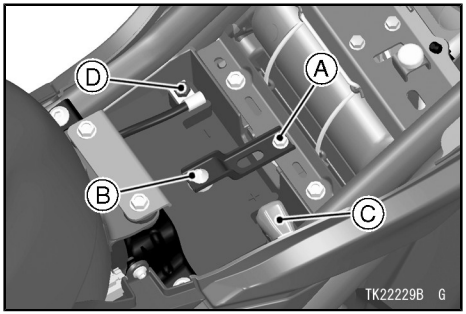
異なった種類のタイヤを使用したり、指定サイズ以外のタイヤを使用すると、車の走行安定性を失い、けがや死亡にいたる事故につながる可能性があります。前後輪同一メーカの指定タイヤを使用してください。

バッテリ

バッテリ端子部に汚れや腐食がある場合はバッテリをはずして清掃します。

バッテリの取り外しおよび取り付け方

- イグニションスイッチをオフにします。
- 運転者用シートを取り外します(50ページを参照)。
- ボルトとブラケットを取り外します。
- マイナス（–）ケーブルを取り外します。
- 赤色のキャップをずらし、プラス（+）ケーブルを取り外します。
- バッテリをバッテリケースから取り出します。



A. ボルト
B. ブラケット
C. 赤色キャップとプラス（+）端子
D. マイナス（–）端子

- バッテリの取り付けは、取り外しの逆順に行います。
- プラス（+）ケーブル（キャップあり）を接続し、それからマイナス（–）ケーブルを接続します。

アドバイス

○ マイナス（–）ケーブル接続時、必ずケーブルの端子をバッテリ端子へ押し

当てながら端子ボルトを締め付けてください。

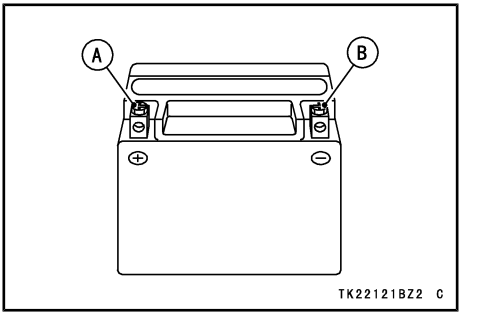
注意

バッテリケーブルの(＋)(−)の接続は逆にしないでください。電気系統が損傷します。

- 取り外した部品を取り付けます。

バッテリ端子部の清掃

- バッテリを取り外します。
- 端子部に汚れや腐食があるときは清掃します。なお、端子部が腐食して白い粉が付いているときは、ぬるま湯を注いで拭くとよく落ちます。
- 端子部の腐食が著しいものは、ワイヤブラシ、サンドペーパで磨きます。
- 清掃、締め付け後は、端子部にグリースを薄く塗布します。



A. プラス(＋)端子
B. マイナス(−)端子

⚠ 危険

バッテリ液は、腐食性が大きく皮膚炎を起こしたり、金属を腐食させる等非常に危険です。新品のバッテリにバッテリ液を注入するとき、体、衣服、車体等に付着しないよう充分注意してください。万一、目や皮膚等に付着したときはすぐ多量の水で、5分間(目の場合は15分間)以上洗浄して専門医の診察を受けてください。

⚠ 危険

バッテリは引火性ガス(水素ガス)を発生しますので、取り扱いを誤ると爆発する可能性があります。必ず下記の項目を守ってください。

- バッテリの整備を行うときは、必ずエンジンを停止させてください。
- 作業中、バッテリの(+)(−)端子が工具等により、ショートしないように注意してください。
- ケーブルを取り外す場合は、(−)端子から取り外してください。また、取り付ける場合は、(+)端子を先に取り付けてください。
- ケーブルに緩みが生じないよう確実に接続してください。
- バッテリにガソリン、オイル、有機溶剤等を付着させないでください。電槽割れの原因になります。
- 子供の手の届くところに置かないでください。

注意

- **この車のバッテリにはシール形バッテリを使用しています。シール形バッテリは液の補充は必要はありません。密封栓をこじ開けて液の補充は絶対おやめください。バッテリが損傷します。**
- **寿命がつきたバッテリを交換する場合は、必ず同型式のバッテリをご使用ください。**
- **使用済みのバッテリを廃却する場合はカワサキ正規取扱店にご相談ください。**

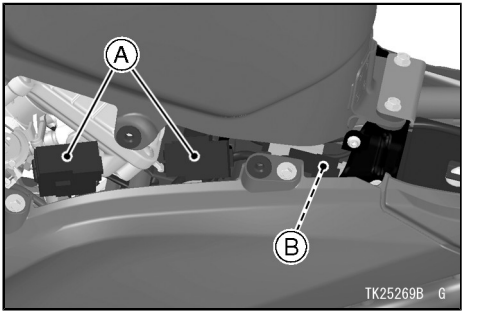
メーカ名	**古河電池**
型式	**FTX9-BS**

アドバイス

○ エンジンが始動しなかったり、ホーンの音が弱い、ヘッドライトが暗い等の場合は、バッテリが放電しています。バッテリの補充電をカワサキ正規取扱店にご相談ください。

ヒューズの交換

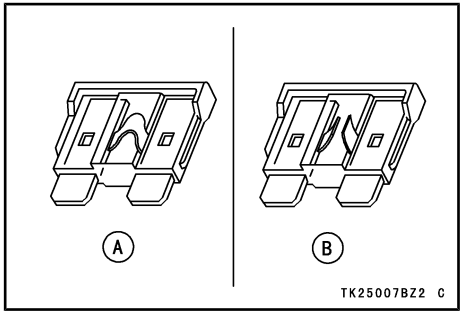
ヒューズは左サイドカバーの裏にあるヒューズボックスにあります。メインヒューズは燃料タンクの下にあるスタータリレーにあります。



A. ヒューズボックス
B. メインヒューズ

ヒューズが切れたときは原因を調べてスペアヒューズと交換してください。

メインヒューズの交換はカワサキ正規取扱店にご相談ください。



A. 正常
B. 切れた状態

⚠ 警告

指定以外のヒューズを使用するのは火災の可能性があり危険です。かならず指定の容量、規格のヒューズを使用してください。

アドバイス

- 交換してもすぐにヒューズが切れる場合は、他の原因が考えられます。カワサキ正規取扱店にご相談ください。
- スペアヒューズを使用した場合は、なるべく早めに代わりのスペアヒューズを補充してください。

車のお手入れ

いつまでも愛車を長持ちさせるため定期的にお手入れを行ってください。隅々まで清掃すれば、普段気づかない異常箇所や摩耗が発見でき、故障予防にもつながります。

⚠ 警告

ごみや可燃物が車体、エンジン、排気系部品の中や周囲に堆積すると、故障の原因となることがあり、火災の可能性も高くなります。

- **ごみや可燃物が車体に堆積するような環境で使用するときは、エンジン、電気部品、排気系統を頻繁に点検してください。**
- **ごみや可燃物が堆積している場合は、屋外に車を停めてエンジンを停止し、エンジンが冷えてから堆積したごみ類を取り除いてください。**
- **駐車や狭い囲われた場所に格納する前に、ごみや可燃物が堆積していないか点検してください。**

注意

通常走行時や雨天時、未舗装路を走行した際、インナチューブに付着した汚れ（砂埃、泥、虫等）は固まる前に清掃してください。付着したまま使用を続けるとオイルシールが損傷しオイル漏れの原因となります。

主な注意事項

- 洗車はエンジンとエキゾーストパイプ等が冷えているときに行ってください。
- シール部品、ブレーキパッド、タイヤにクリーナ等がかからないようにしてください。

注意

コンパウンド入りのワックスや洗剤、硬いブラシまたはやすりなどを使用して塗装面や樹脂部品を磨くと、色むらあるいは傷が入る可能性がありますので、使用しないでください。

注意

ヘッドライトのレンズは樹脂製です。レンズ部分を洗浄する場合には中性洗剤を用いて柔らかいスポンジで行ってください。

- ワックス、洗剤等はコンパウンドを含んでいないものをご使用ください。
- ガソリン、ブレーキ液および冷却液等は、塗装面や樹脂部品を傷めますので、これらを部品類に付着させないでください。もし付着したら、すぐに洗い流してください。
- 硬いブラシまたはやすり等は、ご使用にならないでください。
- 樹脂部分を傷めないように、充分に注意をしてください。
- 高圧洗車機を使用しての洗車は行わないでください。特に可動部分や電装品に水がかかると、作動不良や故障の原因となります。

- 洗車の前に下記の部分に水がかからないようにしてください。
  - イグニションスイッチ
    キー差し込み口にビニールテープを貼る。
  - マフラ後部
    ビニール袋でカバーする。
  - クラッチレバーと左ハンドルスイッチ
    ビニール袋でカバーする。
  - エアクリーナの吸入口
    ガムテープ、または布でふさぐ。
  - フロントブレーキレバーと右ハンドルスイッチ
    ビニール袋でカバーする。
  - シート
    ビニール袋でカバーする。
- 下記の部分には強く水をかけないでください。
  - メータユニット
  - ヘッドライト
  - ディスクブレーキのマスタシリンダとキャリパ
  - シートの下、カウリング内および燃料タンクの下の電装品（スティックコイル、スパークプラグ等が著しく濡れると漏電によりエンジンが始動しなくなることがあります。）
  - フロント／リヤホイールのハブ
  - ステアリングステムヘッドパイプ部
  - スイングアームのピボット部
  - 燃料タンクキャップ
  - スロットルボディアッシ

洗車

- 水を流しながら柔らかい布やスポンジを使って汚れを落とし、水分を拭きとってください。拭きとり作業を行いながら、破損や傷がないかを点

検してください。自然乾燥は塗装面を傷めますのでおやめください。
- 汚れが落ちにくいときは、中性洗剤を使って拭きとり、水で充分に洗い流し、水分を拭きとってください。
- 防錆のため、洗車後はドライブチェーン、または各可動部の給油を行ってください。

⚠ 警告

洗車後はブレーキの効きが悪くなり思わぬ事故につながる可能性があります。効きが悪い場合は周囲の安全を確認し、低速で走行しながら、効きが回復するまでブレーキを軽く作動させ、ブレーキの湿りを乾燥させてください。
- **ブレーキディスク、パッドにワックス、オイルを塗らないでください。ブレーキが効かなくなり事故の原因になります。**
- **ディスク、パッドにオイルが付着した場合は、乾燥後オイル成分が残らないような洗浄液で洗浄してください。また、完全に洗浄しきれないときは、パッドを交換してください。**

アドバイス

○ 海岸地域や路面凍結防止剤を散布した路面を走行した後は、直ちに水洗い

をしてください。温水を使用すると塩の化学反応を強めますので、洗車は冷水で行ってください。洗車後は水分を拭きとり、金属部品やクロームメッキ部には防錆油を吹き付けてください。

○ 雨天走行後、または洗車直後等に、ヘッドライト内部に結露による曇りが発生することがあります。ヘッドライト内部が曇った時は、エンジンを始動し、ヘッドライトを点灯させ、しばらくすると、曇りは徐々に消えます。

塗装面

洗車後はワックスがけしてください。ワックスは3か月に一度、または必要に応じてかけてください。

アドバイス

○ それぞれの用品に記載されている説明をよく読み、用途や注意事項を必ずお守りください。

つや消し塗装

中性洗剤と水を使って、汚れを落としてください。塗装面は強く擦ると、つや消しの塗装面につやが出るおそれがあります。不明な場合は、カワサキ正規取扱店にご相談ください。

樹脂部品

洗車後、樹脂部品に残った水分は柔らかい布で丁寧に拭きとってください。乾燥後は樹脂部品専用のワックス／ポリッシュをご使用ください。

注意

- **樹脂部品にガソリン、ベンジン等の有機溶剤が付着すると部品の損傷の原因となります。付着した場合は直ちに水、または中性洗剤で拭きとり、損傷がないかを点検してください。**
- **コンパウンド入りの洗剤や硬いブラシの使用は塗装面に傷を入れる可能性があります。使用しないでください。**

長期間の格納

長期間、車を使用しない場合は下記の要領で手入れをしてください。

アドバイス

○ 油脂類の廃却は法令で適切な処理を行うことが義務づけられていますので、カワサキ正規取扱店にご相談ください。

格納のための準備

- 車全体を念入りに洗浄します。
- エンジンを充分に暖機後、エンジンを停止します。そして、ドレンボルトをはずし、エンジンオイルを排出します。
- ドレンボルトを取り付け、オイル注油口キャップを取り外し、新しいエンジンオイルを入れます。
- オイル注油口キャップを取り付けます。
- 燃料タンクの燃料をすべて排出します。

⚠ 警告

燃料を排出するときは、通気性のよい、火気のない場所で行ってください。

- タイヤの空気圧を2割減らし、前後輪の下に防湿のために板を敷きます。

- メッキ部には防錆油を吹き付けます。ただしゴム部品とブレーキは避けてください。
- ドライブチェーンとすべてのケーブルに注油します。
- バッテリを取り外します。直射日光の当たる所、湿気の多い所、温度が非常に低い所等には保管しないでください。また、1か月毎にバッテリの補充電を行ってください。
- マフラに水が入るのを防ぐためにビニール袋でカバーします。
- 防塵のため車全体にカバーをかけてください。

格納した車を使用する時には

- マフラからビニール袋を取り外します。
- タイヤの空気圧を正規の値にします。

前輪	200 kPa (2.00 kgf/cm^2)
後輪	225 kPa (2.25 kgf/cm^2)

- バッテリの補充電を行います。
- 燃料を入れます。
- 車体各部に注油します。
- 日常点検の項目に従って点検します（メンテナンスノートの日常点検項目、日常点検の方法をご覧ください。）。

環境保護について

● 車、または使用済みの部品・オイル等を廃棄するときは？

環境保護のため、使用済みのバッテリやタイヤ、エンジンオイルの廃油等は、むやみに捨てないでください。これらのものを廃棄するときは、カワサキ正規取扱店にご相談ください。また、将来お車を廃棄する際は、お近くの廃棄二輪車取扱店にご相談ください。

● 廃棄二輪車取扱店とは？

（社）全国軽自動車協会連合会に登録されている販売店で、広域廃棄物処理指定業指定店として登録されている廃棄二輪車取扱店です。廃棄二輪車を適正処理するための窓口であり、店頭に「廃棄二輪車取扱店の証」が表示されています。



廃棄二輪車取扱店の証（230 mm × 200 mm）

● 二輪車リサイクル費用とは？

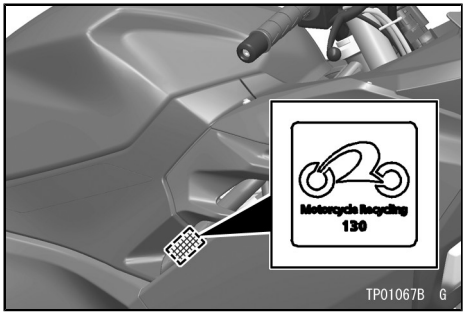
廃棄二輪車を適正に処理し、再資源化するための費用です。

二輪車リサイクルマークが車体に貼り付けされている二輪車は、リサイクル費用がメーカ参考小売価格に含まれていますので、あらためてリサイクル

料金をお支払いいただくことはありません。ただし、運搬または収集する費用は含まれておりませんのでお客様から廃棄二輪車取扱店、あるいは指定引取場所までの運搬または収集費用はお客様の負担となります。

● 二輪車リサイクルマークの取り扱い

この車には、二輪車リサイクルマークが車体に貼り付けされています。車を廃棄する際、二輪車リサイクルマークが必要となります。マークは車体からはがさないでください。紛失、破損による再発行、部品販売の取り扱いはいたしません。二輪車リサイクルシステムの概要、ご利用方法等については、カワサキのホームページまたは、（公財）自動車リサイクル促進センターのホームページでご確認ください。

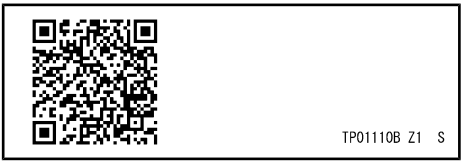


二輪車リサイクルマーク（30 mm × 30 mm）

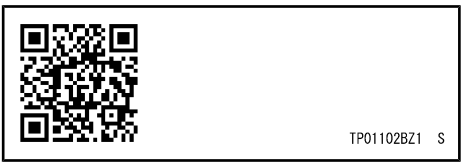
● 廃棄二輪車に関するお問い合わせについて

廃棄二輪車のお取り扱いに関しましては、最寄りの「廃棄二輪車取扱店」、または下記までお問い合わせください。

カワサキホームページ
https://www.global-kawasaki-motors.com/environment/recyc01.html

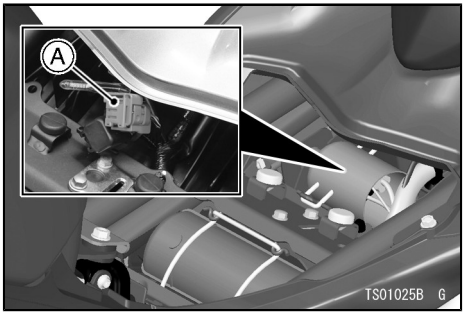


（公財）自動車リサイクル促進センターホームページ
https://www.jarc.or.jp/motorcycle/



DFI自己診断システムコネクタの位置

DFI自己診断システムコネクタはシートの下にあります。



A. DFI自己診断システムコネクタ

車両情報の記録に関して

カワサキでは、この車に搭載されているコンピュータにカワサキ車専用ツールを接続し、記録されている情報を取得する 事があります。取得した情報は車両の点検や故障診断、研究開発、法規適合確認を目的に利用する事があります。

取得する情報はモデルやグレード、地域によって異なりますが、主な項目は次のとおりです。

- エンジンや車体の電子制御装置に記録されている使用状況や設定などの情報
- 排気ガス規制に関連する情報

なお、この車の車両制御コンピュータは音声や映像を記録する事はございません。

取得した情報は、次の場合を除き第三者へ開示されることはありません。

- お客様（または使用者）の同意を得た場合
- 行政や司法機関より法的に要請された場合
- お客様（または使用者）個人や車両を特定せず、加工した情報を研究開発や統計調査などに使用する場合。

イベントデータレコーダ

他の多くの自動車メーカーと同様に、カワサキもこの車にイベントデータレコーダ（ＥＤＲ）を装備しています。この装置は、一定条件の事故や事故に近い状況が発生したときにのみ、事故発生の直前から事故発生中に車両システムがどのように作動していたかを理解するためのデータを、短時間記録するように作られています。

アドバイス

- **通常走行時もデータは常に記録され上書きされていますが、イグニションスイッチをオフにしたときに消去されます。**
- **事故発生時以外にEDRデータが、後で読み出しできるように保存されることはありません。また、全ての事故がEDRデータとして保存されるものではありません。**
- **この装置に個人情報（例：氏名、性別、年齢）が集められ記録されることはありません。**

このデータにより、事故発生時車両がどのように作動していたかを、運転者とメーカーの双方がより良く理解するのに役立ちます。この車のＥＤＲは、次のような事故時の車両走行状況を示すデータのみを記録するよう設計されています。

- 走行速度
- エンジン回転速度
- スロットル開度

ＥＤＲが記録したデータを読み取るには、特殊な装置をＥＤＲに接続する必要があります。カワサキは、警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請

に基づく場合を除き、あなたの承諾なしにEDRの情報を提供することはありません。

万一の故障に備えて

日常点検、定期点検を欠かさず行っていただければ、不測のトラブルは未然に防止することができます。万一故障の場合は応急処置を行って、お買いあげいただいたカワサキ正規取扱店へ修理をお申しつけください。

エンジンが始動しない

スタータが回らないとき

- イグニションスイッチはオンになっていますか。
- ヒューズが切れていませんか。
- ギヤがニュートラルになっていますか。
- エンジンストップスイッチが ⊠ の位置になっていませんか。
- バッテリケーブルは確実に接続されていますか。
- バッテリはあがっていませんか。

スタータは回るが始動しないとき

- 燃料タンクに燃料が入っていますか。
- 燃料系統が詰まっていませんか。
- 燃料の品質が低下していませんか。
- スパークプラグはゆるんでいませんか。
- スパークプラグは正常ですか。
- スパークプラグギャップは正常ですか。
- スパークプラグはかぶっていませんか。
- 転倒後、一度イグニションスイッチをオフにしましたか。

エンジンが止まる

1速に入れたとき

- クラッチの切れは正常ですか。
- サイドスタンドが降りたままになっていませんか。

走行中に

- 燃料は入っていますか。
- 燃料タンクキャップのエア抜き穴が詰まっていませんか。
- エンジンオイルはありますか。
- バッテリはあがっていませんか。

お客様相談室

名称	電話番号	郵便番号	所在地
(株)カワサキモータースジャパン	フリーダイヤル：0120−400819	〒673−8666	明石市川崎町1番1号

お客様相談室

*フリーダイヤルは携帯電話からもご利用いただけます。

受付時間　月曜～金曜 （祝日および当社休業日を除く）

9：00～12：00、 13：00～17：00

国土交通省ではリコール業務を円滑に行うため、お客様の安全や環境に大きな影響を及ぼすと判断される場合の情報窓口を設定しております。

●自動車不具合情報専用ダイヤル：「自動車不具合情報ホットライン」

フリーダイヤル：0120–744–960 （受付時間 9：30 ~ 12：00、 13：00 ~ 17：30）

24時間電話受付：03–3580–4434 （年中無休・24時間）

●国土交通省のホームページ：https://www.mlit.go.jp/ → 自動車不具合情報コーナー



TP01103BN1 S

リコールについてのお願い

リコールとは、クルマの構造・装置の不具合による事故を未然に防止することを目的とした制度です。
同一型式・一定範囲のクルマについて、構造・装置・性能などが、安全・公害防止の規定（保安基準）に適合しなくなるおそれがあると弊社が判断した場合に、その旨を国土交通省に届け出て、おクルマをご使用のお客様にご連絡し、無料で修理するものです。
なお、保安基準にかかわらない場合でも、対応の必要があると判断した場合には「改善対策」や「サービスキャンペーン」を行っております。

＜改善対策＞
改善対策とは、保安基準にかかわらない場合でも、弊社が安全確保・公害防止の観点から必要と判断した場合に、ご使用のお客様へご連絡し、責任を持って修理するものです。

＜サービスキャンペーン＞
サービスキャンペーンとは、商品品質改善等の観点から、弊社が必要と判断した場合に、ご使用のお客様へご連絡し、責任を持って修理するものです。

適合宣言

アメリカ合衆国:

Each radio frequency device installed in the vehicle conforms to the requirements and standards of the regulation below:

This device complies with part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:
(1) This device may not cause harmful interference, and
(2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Changes or modifications not expressly approved by the party responsible for compliance could void the user's authority to operate the equipment.

TR01095B S

カナダ:

Each radio frequency device installed in the vehicle conforms to the requirements and standards of the regulation below:

This device contains licence-exempt transmitter(s)/receiver(s) that comply with Innovation, Science and Economic Development Canada's licence-exempt RSS(s). Operation is subject to the following two conditions:
(1) This device may not cause interference.
(2) This device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of the device.

TR01096B S

Chaque dispositif de radiofréquence installé dans le véhicule est conforme aux exigences et aux normes du règlement ci-dessous:

L'émetteur/récepteur exempt de licence contenu dans le présent appareil est conforme aux CNR d'Innovation, Sciences et Développement économique Canada applicables aux appareils radio exempts de licence. L'exploitation est autorisée aux deux conditions suivantes:

(1) L'appareil ne doit pas produire de brouillage;
(2) L'appareil doit accepter tout brouillage radioélectrique subi, même si le brouillage est susceptible d'en compromettre le fonctionnement.

TR01097B S

バッテリに関する補足情報

バッテリ全般に関する情報

ここでは、車両に搭載されているモーター駆動バッテリ、12 Vバッテリ、ボタン型電池に関する追加情報を提供します。使用前によく読んでバッテリについて理解してください

⚠ 危険

電解液が衣服、皮膚、目に付着すると、重傷を負ったり死亡したりするおそれがあります。衣服、皮膚、目についた場合は、すぐに多量の水で5分以上（目の場合は15分以上）洗い、専門医の診察を受けてください。

⚠ 警告

バッテリを不適切に取り扱うと、感電、重度の火傷、重傷または死亡を引き起こすおそれがあります。以下の注意事項を厳守してください。

- 火花、火または高温を引き起こす可能性のある熱源から遠ざけてください。
- 子供やペットの手の届かないところに保管してください。
- 落としたり、衝撃を与えたりしないでください。
- 端子部に金属などを触れたり、接続したりしないでください。
- 水をかけたり、濡れた手で触れたりしないでください。
- 分解や改造をしないでください。
- 破損、変形、水没した場合は絶対に使用しないでください。
- 煙や異臭がした場合は、すぐに使用を中止してください。

注意

バッテリを不適切に取り扱うとバッテリが損傷するおそれがあります。以下の注意事項をお守りください。

- 落としたり、衝撃を与えたり、穴を開けたり、変形させたりしないでください。
- 上に重いものを置かないでください。
- 火花、火または高温を引き起こす可能性のある熱源から遠ざけてください。
- バッテリの排気穴を絶対にふさがないでください。

注意

外気が寒いまたは暑い環境でバッテリを使用または保管すると、バッテリが凍結または過熱し、損傷する可能性があります。外気が冷たい、または暑い環境で使用、保管しないでください。

注意

他のバッテリや金属製品とショートすると、液漏れ、発熱、破裂、発火の原因となります。保管、輸送、廃棄する場合は、端子をテープなどで絶縁してください。

注意

バッテリを電子レンジや高圧容器に入れると、バッテリが発熱、破裂、発火することがあります。電子レンジや高圧容器に入れないでください。

注意

銘柄や種類の異なる電池、新旧の電池を混ぜて使用した場合、電池は特性の違いにより、液漏れ、発熱、破裂することがあります。新旧の電池を混ぜないでください。

注意

バッテリを逆接続したり、接続を誤ったりすると、バッテリや電気系統が損傷する可能性があります。バッテリの損傷を防ぐために、接続が正しいことを確認してください。

注意

規定の充電時間を超えて充電を続けると、液漏れ、発熱、破裂、発火の原因となります。規定の時間内に充電が完了しない場合は、バッテリまたは充電器の故障と考えられますので、充電を中止してください。

注意

バッテリが静電気にさらされると、静電気により爆発する可能性があります。点検や整備の前には、車両の金属部分を素手で触って静電気を逃がしてください。

注意

ベンジン、シンナー、ガソリンなどの有機溶剤や洗剤などでバッテリを清掃すると、バッテリの劣化や液漏れの原因となります。清掃には使用しないでください。

アドバイス

○ 必ず本書に記載されている仕様・性能のバッテリをご使用ください。

ボタン型電池の追加情報

⚠ 危険

電池を飲み込むと化学火傷や粘膜組織の貫通を引き起こし、重傷を負ったり死亡したりするおそれがあります。お子様の手の届かないところに保管してください。電池を飲み込んだ場合は取り出す必要がありますので、直ちに医師の診察を受けてください。

注意

充電するとガスが発生したり、内部構造が損傷し、液漏れ、発熱、破裂、発火の原因となることがあります。絶対に充電しないでください。

注意

長時間接続したままにすると、電池から発生するガスにより、電池を漏液、発熱、破裂、発火させたり、機器を破損するおそれがあります。長期間デバイスを使用しない場合や、電池が消耗した場合は、デバイスから取り外してください。

注意
電池をはんだ付けすると、熱損傷による液漏れ、発熱、破裂、発火の原因となります。絶対にはんだ付けをしないでください。

注意
機器によっては、電池ホルダーの金属部分が電池の（＋）、（－）端子に接触する場合があります。電池がショートしないように機器に取り付けてください。





EX250Y

カワサキモータース株式会社

* 9 9 8 1 7 - 0 0 7 1 *

Printed in Thailand